

平成25年第2回那須烏山市議会3月定例会（第4日）

平成25年3月8日（金）

開議 午前10時00分

散会 午後 5時14分

◎出席議員（17名）

1番	田島信二	2番	川俣純子
3番	渋井由放	4番	渡辺健寿
5番	久保居光一郎	7番	高德正治
8番	佐藤昇市	9番	板橋邦夫
10番	水上正治	11番	平山進
12番	佐藤雄次郎	13番	小森幸雄
14番	滝田志孝	15番	高田悦男
16番	中山五男	17番	平塚英教
18番	樋山隆四郎		

◎欠席議員（なし）

◎説明のため出席した者の職氏名

市長	大谷範雄
副市長	國井豊
教育長	池澤進
会計管理者兼会計課長	小原沢栄寿
教育次長	岡清隆
総合政策課長	坂本正一
総務課長	栗野育夫
危機管理室長	清水敏夫
税務課長	澤村俊夫
市民課長	平山隆
福祉事務所長	平山正夫
健康福祉課長	網野榮
こども課長	鈴木重男
農政課長	堀江豊水

商工観光課長	高橋博
環境課長	小川祥一
都市建設課長	福田光宏
上下水道課長	樋山洋平
学校教育課長	大野治樹
生涯学習課長	川堀文玉

◎事務局職員出席者

事務局長	堀江久雄
書記	薄井時夫
書記	藤野雅広

○議事日程

日程 第 1 (議案第1号～議案第9号) 平成25年度那須烏山市一般会計・特別会計・企業会計予算について ※質疑～委員会付託

○本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

[午前10時00分開議]

○議長（中山五男） 議場内の皆さん、おはようございます。連日御苦労さまです。ここ数日春の陽気に誘われまして、皆さん方には本日も眠気を催すかと存じますが、議場内では緊張感をもって審議にあたってくださいますようお願いを申し上げます。

ただいま出席している議員は17名全員です。定足数に達しておりますので、ただいまから会議を開きます。

本日の議事日程はお手元に配付のとおりであります。

◎日程第1 （議案第1号～議案第9号）平成25年度那須烏山市一般会計・特別会計・事業会計予算について

○議長（中山五男） 日程第1 平成25年度那須烏山市一般会計予算・特別会計予算・企業会計予算、合わせまして9議案を議題とします。

本案については、去る3月5日の本会議において、市長の提案理由の説明が終了しておりますので、直ちに質疑に入ります。なお、所管の委員会に関する事項につきましては、委員会の審査において質疑されますようお願いいたします。

それでは、質疑に入ります。よろしくようお願いいたします。質問の順番につきましては、過日、全員協議会で申し合わせましたとおり、1番議員からお願いしたいと思います。

1番田島信二議員。

○1番（田島信二） それでは質問いたします。まず、18ページの栃木県地上デジタル放送難視聴対策公聴施設整備事業補助金175万円というのは、どの地区で何件分なのか。あと、今工事をやっていると思うんですけども、中山とか入滝田の工事もそれに含まれているのか。

あとは29ページ、運転免許証自主返納支援金45万3,000円、これは何名分で、あとは返納した人にはタクシー券とか何とか配布するんですか。

46ページ、地籍調査費2,286万7,000円、現在、どの地区をやっているのか。あと市内で何%ぐらい進んでいるのか。この金額で何ヘクタールぐらいの地籍調査ができるのか伺います。

86ページ、大松・富谷・八溝大橋維持管理費負担金、これは去年は35万円ぐらいで、ことしは倍額になっているんですけども、電気料は倍額になっていないと思うんですけどどうでしょうか。

以上、質問いたします。

○議長（中山五男） 坂本総合政策課長。

○総合政策課長（坂本正一） 　　ただいま地上デジタル難視聴対策事業補助金の件で御質問がございました。平成25年度につきましては、上川井志鳥地区、大金台地区、田野倉地区の3地区が予定されております。総戸数で言いますと79世帯ということでございます。なお、先ほどありました中山地区については平成24年度で事業を完了してございます。

　　以上でございます。

○議長（中山五男） 　　清水危機管理室長。

○危機管理室長（清水敏夫） 　　29ページの免許証自主返納支援事業でございますが、平成25年度は20人分を予算化しております。なお、これについてはタクシーの利用券か市営バスの回数券2万円相当分、また、希望される方は自転車のヘルメットというようなことで支援を行っていきます。ちなみに、平成23年、平成24年度で53名の方、自主返納しております。

　　以上です。

○議長（中山五男） 　　福田都市建設課長。

○都市建設課長（福田光宏） 　　私のほうから2点答弁したいと思います。1点目が、地籍調査事業のことです。どこをやるかという部分なんです、曲田、大木須、日野町、中央でございます。今までの進捗状況なんです、旧南那須で87.07%、旧烏山で61.94%でございます。これは平成24年4月1日現在の数字でございます。全体で73.87%でございます。

　　あと面積なんです、いろいろな計算の方式があるんですが、0.94キロ平方メートルということになっております。

　　86ページの八溝負担金の件なんです、この件につきましては、那珂川町に八溝大橋、大松橋、富谷橋という3つの橋を委託しております。平成25年度はこの3つの橋の区画線の引き直し等々の工事を予定しております。修繕費80万円ぐらいを考えておりますので、電気料ともども140万円、1市1町でやりますので約70万円ということで、35万円の増になります。

　　以上でございます。

○議長（中山五男） 　　2番川俣純子議員。

○2番（川俣純子） 　　17ページの国庫支出金の災害復旧費国庫補助金、この災害廃棄物処理事業というのは、このぐらいの金額で何にお使いになるのか。

　　次が、19ページの県支出金の衛生費県補助金の中に、去年はここに子宮頸部がんの補助金が入っていたと思うんですが、健康増進事業補助金になって金額も大分違うのですが、いかがでしょうか。

同じページの商工費県補助金の中の緊急雇用創出事業補助金はどのような部門にお使いになるのか。

次は38ページです。民生費の児童福祉ですね。地域子育て支援広場型事業というのはどのような事業なのか。次のページの39ページ、保育施設費があるんですが、大分職員の方が退職されますが、この人件費とか運営はどの程度できるのか。引き継ぎはうまくいくのかを教えてくださいたいです。

63ページ、災害復旧費の中の観光施設災害復旧事業というのは、どこの場所の復旧事業なのでしょう。

80ページのねんりんピック栃木県的那須烏山市実行委員会交付金の中で、どの施設を使うのか。どういうふうはこの金額を使うのか。決まっていれば教えてください。

あともう1個、この予算概要、那須烏山市予算概要という中の政策別重点事業というのがありますが、5ページの薄っぺらいのです。その中に文武両道教育推進事業というのがありますが、これは剣道にかわったためのものなのか。改めて後ろのページにある武道館整備とかそういうことに使うのか。その1つ上にある6ページの夢の教室開催経費というのは、夢の教室というのは具体的にどんなものなのか、お教えしたいと思います。

以上です。

○議長（中山五男） 小川環境課長。

○環境課長（小川祥一） 17ページの国庫補助金の件に関してお答えをしたいと思います。国庫補助金は2分の1の補助でございます、では、どこに使うのかと言いますと、やはり先ほどお話しされたような震災瓦れき、木質廃材処理費ということで、塵芥処理費、ページ数で言いますと43ページになるんですけれども、43ページの塵芥処理費の中の事業で、震災瓦れき、木質廃材処理費として1,512万2,000円を計上しております、瓦れきの総数1,820トンを予定しております。

以上でございます。

○議長（中山五男） 鈴木こども課長。

○こども課長（鈴木重男） それでは、私ども3点お問い合わせがございましたので、順次説明を申し上げます。

まず、19ページの県支出金15款ですね。それからこの衛生費補助金、子宮頸がん等ですね。等がつかますけれども、昨年まで3カ年ワクチン交付金ということで御指摘のとおりございました。ただし、平成25年度から定期予防接種になるということで、これを9割を地方交付税で手当をしますという形になりましたので、今回補助金からは削除されております。

それから、2点目といたしまして、38ページになろうかと存じます。地域子育て支援広場

型事業でございますが、これは場所は主にこども館でやっている事業になろうかと思えます。特に、子育て親子の交流の場の創設とか、お子様が来ていただいているいろいろな事業を展開している。これは国の補助事業の名前が広場型というふうな名前をとっておりますので、そのまま継承してちょっとわかりづらいのでございますが、地域子育て支援広場型事業をこども館で実施しているということでございます。

それから、3点目になろうかと思えます。関連しまして39ページのほうから、退職される職員の方がいらっしゃって引き継ぎがうまくいくのかなというふうな懸念が先ほどあったかと思えます。私どもで考えておりますのは、基本的に保育園の中で幼稚園も兼ねてあるんですが、副園長という職の人間もおりまして、園長をサポートするのが副園長でございますが、基本的に一心同体の形で今まで事務、事業等を実施しておりますので、スムーズにその辺の引き継ぎはいくものというふうに私どもでは理解しております。

以上でございます。

○議長（中山五男） 高橋商工観光課長。

○商工観光課長（高橋 博） それでは説明を申し上げたいと思えます。

まず、19ページの緊急雇用創出事業補助金でございます。これらにつきましては、昨年度より今年度、かなり減っております。これらにつきましては、国のほうからのおおよその内定をもらった数字を今回、上げているということで、今年度は5つの関係を実施しております。

まず1つは、総合政策課のほうの事業で、いわゆる地域、那須烏山市の魅力発信ということで下野新聞にお願いしまして、いろいろ市のイベント、いろいろな情報を下野新聞に掲載している。そういう事業で、いわゆる4人を予定しているという事業でございます。

あとは環境課、現在、環境課のほうでもお願いしておりますが、環境課のほうの事業でいろいろな廃棄物の処理とかそういった関係の事業をやるということでございます。

また、農政課のほうの関係で、現在、御承知のとおり、CRTをお願いしておりますが、来年、平成25年度もぜひお願いしたいということで、それらの事業を予定しております。また、農政課のほうで事務、そういったものも現在お願いしておりますが、そういった事業で今回、雇用を14人予定しております。ちなみに、平成24年度実績は94人になりました。94人ということでございます。これらに伴う補助費でございます。

あと、63ページ、災害復旧費の1,000万円の金額でございます。これにつきましては、今、一般質問等でも指摘がありましたが、いわゆるこれは今現在検討しております大金駅前の物産センター跡地にかかわるどういったものができるかできないか、今、検討中でございますが、ただ、これは予算で私の一存で考えた金額でございまして、というのは、議員からいろいろ質問がありますように、来年、蓄電池システムが導入されるということで、当然その駅前の

整備を図らなければならない。多くの方が見えたときに、大金駅を下りて何もないということでは、駅前の活性化、例えば新たに来た方が、この周囲が何もないんだなど。休憩所もない、トイレもない。そういうことでは市のPRに非常に影響するということで、できれば何かそういった休憩所とかトイレといったものができればいいのかなと考えて、予算要求、その施設の建築設計料、詳細設計料ということで、とりあえずつかみで1,000万円を要求しました。これらにつきましては、現在、ワーキンググループとか実行委員会で内容については検討中でございます。

ですから、これらにつきましては、変わる要素もあるということですが、とりあえずそういうことで要求をしております。

以上でございます。

○議長（中山五男） 網野健康福祉課長。

○健康福祉課長（網野 榮） それでは、80ページですね。ねんりんピック栃木2014の関係でございます。こちらの内容、場所はどこかという御質問でございます。こちらにつきましては、来年の10月5日に本市の場合開催しますが、来年10月に、栃木県が全国の高齢者の健康福祉まつりが当番の県になってございます。そちらの関係で那須烏山市のほうは俳句大会がその会場になってございます。その関係で、この200万円につきましては、ことしの10月に本番の前の年にリハーサル大会をやりなさいということになってございますので、そちらのリハーサル大会の準備大会の経費ということになってございます。

場所につきましては、烏山城カントリークラブのクラブハウスをお借りしまして、そちらの会場を予定してございます。

内容につきましては、そちらの俳句大会にかかる実行委員会の運営経費、準備経費等々、こちらのほうが200万円ということで計上してございます。

以上でございます。

○議長（中山五男） 大野学校教育課長。

○学校教育課長（大野治樹） それでは、那須烏山市の予算の概要の5ページに掲載されております文武両道推進事業についての御質問にお答えしたいと思います。

こちらは平成25年度から新たに取り組む事業でございます。平成25年度の特徴ということで、知恵と協働によるまちづくりプラン11の中に、文武両道推進教育の推進の検討委員会を平成25年度に立ち上げまして、基礎学力の向上はもとよりスポーツ、武道、芸術等の両立を図るということで、それらの教育のほうにどのように生かしたらいいかということで検討委員会で検討をして、今後の教育に生かしていきたいということでの予算計上でございます。

○議長（中山五男） 川堀生涯学習課長。

○生涯学習課長（川堀文玉） 　　ただいま川俣議員からこの予算の概要、6ページ関係ですか、武道館整備、それから夢教室ということで御質問いただきました。武道館整備につきましては、前の文武両道とは一緒にはリンクしていないということで、あくまでも今、休止しております市の武道館のあり方等を検討するためのプロジェクトを立ち上げるということでございます。

また、夢の教室といいますのは、メインは日本サッカー協会が行っております、こころのプロジェクト夢教室という事業でございまして、サッカー等のトップアスリート、既に引退された方なんですけど、この方が市内の小学5年生を対象に都合2時間授業をしていただけるという経費で、その費用でございまして。

1時間は大体お話で、1時間は実技というか一緒に体を動かすということで、主には日本サッカー協会がメインで行っておりますので、J1等で活躍した選手ですが、中には場合によっては相撲の貴乃花親方とかそういう方も呼べる可能性はありますので、各小学校の5年生クラスごとです。ですから、烏山小学校の場合は3クラスで別々に授業を行う、その経費をこし初めて計上したところでございます。

以上です。

○議長（中山五男） 　　2番川俣純子議員。

○2番（川俣純子） 　　そのために夢なんです。ぜひともずっとそういうのがあると、やはり子供たちは刺激になると思うので、ありがたいことです。ほかのは大体わかりましたが、本当に保育園の園長さん、調理主任さんもおやめになるので、大分違ってくるのかなという不安はきっと保護者の方、地域の方も思うので、上手な引き継ぎを必ずしていただきたいなと思います。

それと先ほど商工観光課のほうから言われた大金駅前周辺の整備、その設計料というふうに伺っているんですけど、先ほどのように予算概要の中には大金駅周辺、同じ金額で整備事業というのでもありますよね。それと同じということですか。それとは別ですよ。

○議長（中山五男） 　　高橋商工観光課長。

○商工観光課長（高橋 博） 　　お答えしたいと思います。これらの詳細設計は今現在、検討している大金駅前整備とはまた、これに含まれる大金駅前の整備でいわゆるLED化とか、あとかきのうも質問がありました花時計とか、ああいうものの今後の維持管理、撤去するとか、今度新たに違うもので整備するとか、大金駅前全体での整備をこれで今検討しております。

その中に、物産センターの跡地を含むことで検討しておりますが、今、申しあげましたように、例えば検討委員会等でここにはこういうものがあつたほうがいいのではないかとか、そういう提案が出て、最終的に市長のほうで決定されれば、万が一建物が箱ものをつくる場合に伴う詳細設計料ということで、別に予算は計上しております。

建物の詳細設計料ですね。例えば建物を建てるのにはその設計を組まないと入札とかできないわけですから、これは全体的に今言ったように今検討している大金駅前との関係ですね。それの中に今、建物、物産センターの跡地をどうするかということでございます。

予算は別は別なんです。ただ、物産センターの跡地にかかわるものということで御理解いただきたいと思っています。（「たまたま金額が一緒だったというだけですよね」の声あり）

○議長（中山五男） 御理解いただけましたか。

國井副市長。

○副市長（國井 豊） 商工観光課長から説明があった件であります。この予算概要の中で、主要事業の特徴ということで市長が前から説明しておりますけども、JR烏山線沿線整備観光振興対策検討委員会、この1,000万円でございます。きのう、おとといを含めて一般質問の中にありました大金駅前を含め観光PR、それから90周年記念、そういうものの経費がこれですよということでございます。

○議長（中山五男） 2番川俣純子議員。

○2番（川俣純子） 答えは大丈夫なんですけど、概要のほうに入っているのが整備計画で、JR烏山線の。こっちに出ているほうが災害なので跡地を考える。別物だということですよ。関連はしているけど、予算は別ということですよ。同じ1,000万円だということですか。災害のがここに来ているということですか。

○議長（中山五男） 高橋商工観光課長。

○商工観光課長（高橋 博） 今回、予算で予算書の48ページをごらんになっていただきたいと思いますが、ここに48ページのJR烏山線沿線整備観光振興対策事業費ということで1,000万円とっております。これがいわゆるこの1,000万円がつかみで、うちのほうでとっておりますが、これらの金額は跡地利用ということでとっております。

○議長（中山五男） 坂本総合政策課長。

○総合政策課長（坂本正一） ただいま金額が1,000万円、1,000万円と同額でございますので、ちょっと混乱をしていると思いますが、JR烏山線沿線整備検討委員会のほうは沿線整備全体構想を進める上での予算ということでございます。災害復旧費のほうに1,000万円計上されておりますのは、その物産センターの跡地に建物を建てる際の調査設計費ということでございます。何で災害復旧費のほうに計上しているかということでございますが、東日本大震災の影響で災害復旧費ということで、この項目に計上しておりますと、後で特別交付税の要望をする際の参考資料となるということで、災害復旧費のほうに予算を計上させていただいておりますので、御了解だけしてください。

○議長（中山五男） 3番洪井由放議員。

○3番（渋井由放） お願いをいたします。この予算書の総括的な話になりますが、まず、今度は大量に職員の皆様が退職になるというようなこともありまして、1つは職員の皆様の資質向上のために研修を行わなければならないということになると思います。どのような計画をまずされて、市民のサービスの低下を防ぐ方策をするのかというのが1つでございます。

そして、少なくなれば職員の皆様が激務ということになるかと思しますので、その健康管理の配慮がどのようにされるのか。あまり残業が多くて、過労死というようなことがないように手立ては当然考えているとは思いますが。

次には、国家公務員の給与が下がってきております。国家公務員給与と地方公務員の給与の差、これはラスパイレス指数というんでしょうか、当然それが給料は変わらない、片方が下がるということになれば、その指数が当然上がるといいますか100%を超えるというようなこと、この辺は市長がどのように考えているか。まず、伺いたいと思います。

それで、次に、11ページ歳入でございますけれども、市税ですね、市のたばこ税、現年課税分なんです、2,100万円ほど多い1億7,100万円が計上されております。前にこの税の配分の見直しがありまして、市のほうに入る額が多くなってきている。こういうことだと思いますが、私、たばこを吸っているものでいつも嫌がられているんですが、このぐらいの税金を払っているんだよというようなことも含めて、これは説明をお願いしたいなということでございます。

次に、12ページですね。地方消費税交付金につきましては、前年度が2億2,000万円、それで補正で2億4,000万円を計上しまして、本年度は2億5,000万円、この地方消費税交付金、どのような根拠でこのように増加するのか。その辺の説明とまた、これの消費税交付金というのはどういうものなのかということでございます。

続きまして、29ページでございます。総務費の企画費2,914万円ということで、前年度から比べると2,314万円ほど多くなっているのかと思います。どのような内容か、どのように使用するか。

同じ29ページ、総務費で情報政策推進費、これも四百六十数万円多くなっているのかなというふうに思うんですが、これがどのような内容でどのように使われるのか。

次、36ページ、民生費の中で障害福祉費ですね。もしかすると前年度公募した建設関係の助成かなとも思うんですが、4億8,300万2,000円というようなことでございます。もし、その施設だとすれば、どんな施設が対象なのかを改めてお伺いしたいと思います。

次に55ページですね、教育費の中で事務局費、教育情報ネットワーク整備事業1,581万8,000円、どのような内容になっているのかということでございます。

あと国民健康保険特別会計ですね。120ページになります。繰入金1億7,000万円

繰り入れをいたしますと、残金が111万4,000円と何かちょっと心細いかなと思うんですね。この辺は大丈夫だとは思いますが、対応どうなんでしょうかということと。

診療施設勘定、139ページですね。この中身、職員人件費の内容を先生がいたり、看護師さんがいたりするのかと思うんですけれども、その辺でございます。

以上、説明をお願いいたします。

○議長（中山五男） 大谷市長。

○市長（大谷範雄） 先ほど職員の給与の削減の問題につきまして御質問がありましたので、私のほうからお答えしたいと思います。

今、国の総務省からそういった要望という形なんですけれども、各市町村に対しまして7月をもって国家公務員の給与を7.8%下げるから、それに同調するよというふうな要望だというふうに総務省は言っておりますけれども、来ているわけでございますけれども、これは7月からやってほしいということでございます。

今、私は基本的には反対でございまして、市長会を通じて反対をしているわけでございますけれども、なかなかそういった結論がまだ見えだしていません。そういった経過中だというふうに御理解いただきたいと思えます。

私ども、合併いたしました職員数の推移を見てまいりますと、合併当時336人、職員がおりましたが、ことし3月末では267人ということで何と20%、数にしても段階的に適正化計画にのっとり削減をいたしました。またさらに、金額ベースを見てみましても、人件費も、その合併直後の人件費から同様に約20%程度の削減をしてきたわけでございます。

国に先んじて、そういったところをやってきたわけございまして、何らこれをさらに削減をするということには全く理由にはあたらないと思えます。そのようなところから、今後国のほうの見解をまた見守らなければなりませんけれども、ただいまのところは、給与の削減については反対をしてきていきたいと思えます。

○議長（中山五男） 栗野総務課長。

○総務課長（栗野育夫） それでは3点質問がございました。まず、1点目の研修の進め方でございますが、当市におきましては、管内で設置しております塩谷那須南ブロック研修、県下市町村で構成しております市町村研修、同時に県が主催する職員の研修にあわせて入れていただきまして、同時に研修するというような3つの方式をとっております。また、一部ではありますが、市単独で研修している部分もございます。予算につきましては、那須烏山市予算概要の6ページの効率的で質の高い行政経営ということで、これはブロックの新採用研修に参加するための費用で43万4,000円。先ほど申し上げましたその他各市町村、県に提出して負担します金額が156万5,000円。そのような費用を用いまして研修に努めている

ところでございます。

2つ目の職員の労働管理というか残業の捉え方なんですけれども、合併後、おおむね各個人1年間100時間を目標に設定して残業に努めていただいているところでございますが、震災とか2回続きました那珂川の洪水等によりまして、それらに関連する課におきましては600時間、700時間という残業が見られたのも事実でございます。

次に、先ほどの市長答弁の内容と同一になる部分があるかと思うんですけれども、ラスパイレス指数の問題でございます。市長から取り組み方につきましては説明がありましたので、本市のラスパイレス指数の状況を報告いたしまして答弁にかえたいと思うんですけれども、本市の場合、平成24年度106.5%でございます。参考までに申し上げますと、全国の市の平均値が106.9%でございます。国は100を基準としてやりますので、6.5%分高いという結果になりますが、国は御存じのように震災関係で既に7.8%を国家公務員の給与を減額している関係上、そのような数値になっているのかと考えております。

なお、国が7.8%の減額をしなかった場合は、本市の場合98.3%という形になりますので、国が特例期間を設けて7.8%の給与減額をやっておりますので、若干6.5%高いというような状況になっております。

以上でございます。

○議長（中山五男） 澤村税務課長。

○税務課長（澤村俊夫） 渋井議員の市たばこ税の御質問についてお答えいたします。

11ページの下から2つ目の欄に市たばこ税の記載がございます。御指摘のとおり、平成25年度は、平成24年度に比べまして2,100万円増額ということで予算を計上してございます。先ほど議員がおっしゃられたように、平成25年4月1日以降の売り渡し分から、たばこ税の税率改正といいますか、県と市の配分が変更になります。その関係で今回、大幅な増になったわけでございます。

内容を申し上げますと、3級品以外が1,000本当たり4,618円から、市の分が5,262円ということで644円プラスになります。また、旧3級品につきましては2,190円から、市のほうが2,495円ということで、1,000本当たり305円プラスになるということでございます。

なお、旧3級品と3級品以外の割合ですが、旧3級品以外がおおよそ97%、旧3級品が3%を占めているということで、これらをもとに積算してございます。また、本数関係ですけれども、平成21年度、おおよそですけれども4,500万本、平成22年度は4,000万本、平成23年度が3,800万本ということで推移してございまして、徐々にですが減っております。しかしながら、今後の傾向はちょっとわかりませんので、本数につきましては平成

23年度の実績をもとに積算をいたしているところでございます。

以上です。

○議長（中山五男） 坂本総合政策課長。

○総合政策課長（坂本正一） それでは、まず地方消費税交付金の関係につきまして御説明をさせていただきます。

地方消費税交付金につきましては、消費税5%のうちの1%が地方分ということで徴収をされているわけでございます。この1%につきまして、県のほうで人口、企業従事者数の割合、こちらで案分をされまして各市町村のほうに交付されるというものでございます。

平成25年度予算の推計でございますが、1つには地方財政計画の伸び率ですね。これは今年度の地方財政計画の伸び率が約0.7%ということでございます。それから、過去の決算額の推移を参考として予算を計上させていただいているものでございますが、ちなみに平成22年度が2億9,037万5,000円。平成23年度が2億7,311万8,000円ということでございます。3月補正予算で2億4,000万円ということで予算を計上させていただいておりますが、年4回交付で最後の3月分の交付がまだでございますので確定はできませんが、約2億5,000万円程度見込まれるのではないかとということで推計をさせていただいております。

それから、歳出のほうの29ページの企画費の内容でございます。企画管理費につきましては、まず、一般管理費といたしまして企画関係の旅費、消耗品等を計上させていただいておりますが、その中に予算の概要の重点プロジェクトの11に掲げられております中央公園整備検討委員会等の予算31万円が計上されております。

それから、総合計画策定事業費ということで115万8,000円でございますが、こちらにつきましては、総合政策審議会の運営にかかる経費でございます。平成24年度で後期計画が策定されましたので、平成25年度以降、プラン・ドゥー・チェックをどのような形で進めていくかということを審議会のほうで調査研究を進めてまいる予算でございます。

行政マネジメントシステム事業につきましては、こちらは宇都宮大学と連携をいたしまして、先ほどの総合計画の進行管理をどのように進めていくかということを今、調査研究しておりますが、そちらに要する経費でございます。

地域間連携プロジェクト推進事業ということで、FIT推進協議会、これは栃木、茨城、福島の3県並びに関係する37市町村で連携推進協議会を立ち上げておりますが、そちらの運営に要する負担金ということで2万6,000円を計上いたしております。

地域振興事業費2,914万6,000円でございますが、この中身につきましては、まちづくり団体への支援事業ということで200万円。それから、自治宝くじの還元金を活用しまし

たコミュニティ助成事業、こちらで540万円、それから、地域活性化事業といたしまして、こちらは緊急雇用を活用しまして、下野新聞を活用いたしました観光、物産情報の発信ということで、2,174万6,000円の予算を計上してございます。

それから、情報政策推進費でございますが、こちらにつきましては、大きく行政情報化推進費、行政情報化構築費、難視聴対策費、地域ICT利活用モデル事業費として予算を計上させていただいております。行政情報化推進費につきましては、現在、平成23年度にリニューアルをいたしました業務系や情報系のサーバー、それからパソコン等の維持管理費、市民課のほうで予算を管理しておりますが、税とか戸籍等の基幹系情報の維持管理費、こちらが5,854万7,000円です。

それから、国との間でネットワークを組んでおります総合行政ネットワークLGWANの管理運用する経費が109万7,000円。基幹系システム、市民課分でございますが、こちらが2,614万4,000円ということでございます。

それから、行政情報化構築費583万円でございますが、こちらについてはNTT東日本との関係のネットワークの環境構築事業、それから今回、国のほうで戸籍副本データを管理するというので、システムを立ち上げますが、そちらとのネットワークの構築、運用する経費、それからLGWANが新たに第3次LGWANというふうに切りかえられますので、そちらの連携に要する経費521万6,000円でございます。

それから、難視聴対策費でございますが、先ほど田島議員のほうから御質問がございました地デジの難視聴解消事業補助金ということでございます。上川井・志鳥地区、大金台地区、田野倉地区の3地区が平成25年度事業実施を予定しております。そちらに対する補助金でございます。

地域ICT利活用モデル事業につきましては、平成20年度に構築いたしました地域見守りシステムですね。小学生の見守りシステム、健康管理システム、きずな運営センターの委託料等の経費を計上してございます。

内容につきましては以上でございます。

○議長（中山五男） 網野健康福祉課長。

○健康福祉課長（網野 榮） ただいま御質問の36ページの右側の説明欄でいいますと、障害者総合支援事業、2行目ですね、4億8,300万2,000円の内容でございます。こちらにつきましては、障害者介護給付費の分でございます。それから、訓練等の給付費でございます。あわせて、厚生医療等の給付でございます。それが合計で3億8,300万円ということございまして、議員お尋ねの施設整備費はどういうことかにつきましては、同じ36ページの説明欄の下から2行目に介護施設開設準備経費助成事業費3,360万円という

のがあるかと思えます。こちらが今回、選考されている介護保険第5期計画に基づく施設整備の開設準備の補助金でございます。その3,360万円の内容は地域密着型特別養護老人ホーム、認知症グループホーム、最後に小規模多機能と、こちらの3つの施設への補助ということで、開所にあたって1床当たり60万円ということで、それぞれの定員に掛け合わせた分、合わせて3,360万円が出るということでございます。

それから、関連でございますが、前のページ35ページの説明欄右側の3行目でございます。そこに6,000万円という数字があるかと思えます。社会福祉施設整備費6,000万円、これが先ほどと関連いたしますが、こちらは1床当たりですね。

先ほど御説明申し上げたのは開設準備経費でございますが、こちらは施設整備に対して1カ所当たり3,000万円でございます。認知症グループホームが1カ所できますので3,000万円。それから、小規模多機能施設、こちらも1カ所できますので、合わせて6,000万円ということで、この2つが施設整備関係で予算に計上してございます。

以上です。

○議長（中山五男） 大野学校教育課長。

○学校教育課長（大野治樹） それでは、学校教育課関係での御質問にお答えしたいと思います。

55ページの教育費の事務局費内の教育情報ネットワーク整備事業費についての御質問がございました。こちらの中身でございますが、学校教育の各小中学校、それから教育委員会を結ぶネットワークの維持管理に要する費用と、それから、きのうから御質問がございましたICTを活用した教育機器の購入、整備拡充に要する経費を計上しているものでございまして、平成25年度の中身といたしましては、ネットワークの保守などにかかる維持管理費が約574万円、このネットワーク導入が平成19年度に導入いたしまして、もう6年を経過していることから、サーバー等の機器が保守等の契約が結べないような状況になってございますので、平成25年度サーバーを新たに設置することといたしまして、そのサーバーのリース料、データの移行等、データの再構築料等の経費にかかるものが880万円、それから、先ほど申し上げましたICTを活用した教育情報機器の購入ということで、ICTのモデル校として七合小学校を指定してございまして、そちらの電子黒板ユニットの購入等の費用ということで127万円ということで、平成25年度予算に計上したものでございます。

○議長（中山五男） 平山市民課長。

○市民課長（平山 隆） 繰入金1億7,000万円ということで御質問がありましたのでお答えしたいと思います。

まず、きょうの下野新聞に赤字市町13町ということで載っておりますが、平成23年度は

那須烏山市が単年度収支マイナス5,033万7,375円ということになっております。それから、国民健康保険の収納率が上から数えて6番目の90.61%という状況でございます。御承知のように、平成25年度で1億7,000万円を取り崩しますと、平成25年度末は109万9,000円という基金残高になってしまうわけでございます。

そういった状況から、徴収率の努力はもちろん今後も継続していくわけでございますが、平成25年度中に国民健康保険の運営協議会等で、平成20年度から据え置かれている税率改正の問題等を検討しながら進めていきたいと思っております。

それから、診療所施設勘定の職員の人件費の内訳でございますが、診療所勘定につきましては、七合診療所と境診療所が一緒になっております。まず、七合診療所でございますが、医師1名、一般職1名、臨時看護師が2名、医療事務関係が1名という5名体制で行っております。まず、医師分でございますが、2,346万円、臨時職員、看護師ですが262万2,000円、これはお二人分です。それから、臨時職員の医療事務が242万9,000円、保険料が125万5,000円というので合わせて4,068万7,000円ということでございます。

それから、境診療所でございますが、これは1日勤務ではなくて半日勤務でございます。医師については458万4,000円、看護師が2人、95万7,000円です。事務員が医療事務でございますが74万9,000円、保険料が4万3,000円で、合わせて729万円でございます。

以上でございます。

○議長（中山五男） 3番 渋谷由放議員。

○3番（渋谷由放） まず、一番最初の総括的な話でございます。先ほども触れましたけれども、多くのベテランの職員の皆様が退職し、若い職員の皆様が入ってくると。やはりその研修を徹底をして市民サービスの低下につながらないようにやっていただければと思います。

国は給料を下げろということだそうですが、市長は下げるのに反対だというふうな立場だそうですが、これについては皆さんにそういうことだよということがわかれば、それぞれの判断があるのかなと思います。

あと、先ほどちょっと私、見間違えたのかどうかわからないんですけども、36ページの民生費ですね、前年度、これゼロだったんじゃないのかななんて思ったんですが、そんなことはないんですかね。

○議長（中山五男） 網野健康福祉課長。

○健康福祉課長（網野 榮） こちらの4億8,300万円でございますが、こちらは今回の自立支援法、これまで自立支援関係の項目でございました。こちらがこの条例改正、この前お願いしたとおり、総合支援法に変わるということで障害者総合支援事業費という名称に変わ

っただけでございます。

以上です。

○議長（中山五男） 3番 渋井由放議員。

○3番（渋井由放） それでよくわかりました。

あともう一つ、教育費なんですけど、七合小学校がICTのモデル地区ということ、私が懸念しているのが、これは聞く話ですから本当かどうかはわかりませんが、七合小学校の子供は、とても頭がいいんだという話なんです、学力。用意どんで烏山中学校へ行くと、七合小学校の子供はとても勉強ができるという話で、上位は七合小学校ばかりかというような話があるやに聞いたんです。これは実際どうかわかりません。

ということは、このICT教育、これが結構うまくいっているのかなとか、ほかの地区でもやらないと、そこだけよくなって置いてきぼりになるのではないかと。公平にやるのにはお金もかかるのかなとは思いますが、変な話、義務教育ですから平等に教育を受けなければならぬだろうということで、そのモデル事業をやった検証をし、それが効果があるということであれば、多分田植えしても1カ所ばかりに肥料をやってあとはやらないということはないんです、農家の人はみんなきれいにやって、同じように実をならせようということやっておりますので、しっかり検証し、その検証がよければ、そのお金の問題もありますよ。

ただ、やはり子供たちを育てる上においては、その辺をいつごろ見きわめて対応するのかということを教育長からお話いただければと。

○議長（中山五男） 池澤教育長。

○教育長（池澤 進） 渋井議員、大変教育に関心を持っていただいてありがとうございます。まさにそういう現象も出ていることも承知しておりますが、これは大変うれしい限りでございます。日本一の学力を有する学校をつくるという熱い思いを持っております。それがたまたまICT関係の設備を整えていただいた影響も確かにあろうかと思っております。

渋井議員のおっしゃるように、公平にそして潤沢に予算を計上させていただいて、全市の子供たちに全学級に敷衍できるように私どもも努力いたしますので、その折には予算を御承認いただけるように、今もってお願いを申し上げます。ありがとうございます。

○議長（中山五男） ここで暫時休憩をいたします。

休憩 午前11時05分

再開 午前11時17分

○議長（中山五男） 休憩前に引き続き再開いたします。

4番 渡辺健寿議員。

○4番（渡辺健寿） 簡単に数点お伺いします。

まず、この概要書のほうであります。冒頭に主要事業ということでまちづくりプラン11項目あります。その中に8項目ぐらいが検討委員会ということになってございます。検討委員会ですね、11項目のうち8つありますが、それらの主管になる事務局の課はどこなのかと、それぞれの検討委員会の会長さんはどなたがなっているのか。あるいはこれからつくるのであれば、どなたがなる予定なのか。これをまずお願いしたいと思います。

同じく概要書の5ページであります。先ほど2回ほど地デジの難視聴対策の説明がありました。3地区で79世帯をこし対象に対応するというものであります。これで市内全部が完了するかどうか。あるいはまだ、これでも残るところがあるかどうか、お聞かせいただければと思います。

同じように消防庁舎の負担金10億円からございます。これで全て平成25年度の支出で終了になるのか。今までに前年度の分と合わせて総額幾らぐらいになっているのか、お伺いしたいと思います。

真ん中よりちょっと下にいきまして、特養老人ホーム開設準備経費ということで3,360万円、先ほど認知症とか小規模多機能とか3つほど説明があったかと思いますが、これらは準備経費ということで事務経費かなとは思いますが、具体的に3カ所どこにつくられる予定がたっているのか。わかりましたらお願いしたいと思います。

次のページであります。上から2行目に歴史民俗資料館構想策定業務委託ということで、211万5,000円ございます。これらも業務委託するにあたって、市としてはどんな構想を持っておられるのか。お聞かせいただければと思います。

CRTにつきましては、先ほどありましたね。

同じ概要書の13ページです。高齢者福祉施設整備費ということで6,000万円、これは先ほど認知症の関係と小規模多機能の関係で3,000万円ずつを2つということでありました。これも先ほどと関連すると思いますが、場所等が具体化しているのならばお聞かせいただきたいと思っております。

少し下がってきまして、障害児支援事業2,790万円とありますが、ほぼ昨年の倍以上になっておりますが、これらの内容についてお伺いしたいと思います。

介護施設開設準備は先ほどありました関連だと思っておりますので、これはいいとして、放課後児童健全育成事業3,860万円、これも1,400万円からふえておりますので、それらの内容について説明いただければと思います。

あとは常任委員会に絡むほうですから結構ですが、あともう1点、昨年の予算審査のときにもちょっとお伺いしたんですけれども、あすなろ作業所が移転されました。あの跡地ですね、

丸1年間たつわけですけれども、建物もある。特に、庭に大きな桜の木があるということで、夏場は非常にうっそうとすることです。あそこに行く途中の市道については側溝等が壊れていたもので地元の要請がありまして、いち早く対応していただきましてきれいになりました。担当課の御努力に感謝したいと思いますが、そのときの一緒の要望の中であの道路、御存じのように狭くて車交換できません。それで市有地でありますあすなろ作業所をちょうど道路もカーブの頂点になっている部分であります、市有地を活用して道路改修にあわせて待避所などもお願いできればということでありました。

ということでありますが、今回の工事はそこまではいかなかったということであります。ぜひとも待避所を続けて平成25年なりあるいは補正なりでやっていただくためには、その桜の伐採とかそういったこと、あすなろから多分総務の普通財産に移るのかなと思いますけれども、そこらの伐採から跡地の管理ということで昨年ちょっと触れたんですけども、この予算書にあるのかどうか見つけられなかったのでお伺いしたいと思います。

以上です。

○議長（中山五男） 國井副市長。

○副市長（國井 豊） まず、最初に御質問がございました本年度の予算の概要の中の主要事業の特徴でございます各種委員会の立ち上げの状況でございますが、現在立ち上がっておりますのは御承知のように4番のJ R鳥山線沿線整備観光振興対策検討委員会でございます、この委員長につきましては私が務めてございます。そのほかの委員会の関係については、3月中に委員会を立ち上げるようにという指示は出してございまして、現在、人選中でございます。なお、これらの人選が決まれば、各委員会の規約なり等の中でどういう方が委員長になるかというようなことで決定がされていくものというふうに思っております、先ほど申し上げました1つの委員会以外は今後立ち上がる。委員長も現時点では未定であるということでございます。

○議長（中山五男） 坂本総合政策課長。

○総合政策課長（坂本正一） それでは、地デジの難視聴地域の関係でございますが、難視聴地区として共同受信施設を整備して対応する世帯、昨年9月現在で20地区、1,054世帯ということでございますが、平成24年度中に中山地区、小白井地区、志鳥地区、宇井地区が対応を完了しております。平成25年度が上川井志鳥地区、大金台地区、田野倉地区と3地区が実施予定ということでございますので、まだ残りの地区13地区ございますが、これらにつきましても今年度組合設立等に向けて準備を進めてまいりたいと思います。

なお、新たに鴻野山地区、市貝町の刈生田地区に共同中継所ですかね、中継施設が設置されることも予定されておりますので、場合によってはそれらの関係で組合設立に至らないでも視

聴可能になる世帯も出てくるかなというふうに考えてございます。

以上でございます。

○議長（中山五男） 清水危機管理室長。

○危機管理室長（清水敏夫） 消防庁舎の建設事業でございますが、平成25年度に完成をして、平成26年度の当初から新しい事務所でというようなことで今、計画を進めております。ちなみに、平成24年度までの用地買収その他那須烏山消防庁舎の建設費用については5億2,000万円で、今年度については6億1,000万円で、そのうち那須烏山市が5億7,000万円という負担の割合になっております。

以上です。

○議長（中山五男） 網野健康福祉課長。

○健康福祉課長（網野 榮） 概要書の5ページの介護施設開設準備経費補助金3,360万円ですね。こちらの場所等についての御質問でございます。こちらにつきましては3カ所ということで、まず1カ所が地域密着型特別養護老人ホーム、こちらは平成24年から平成25年に繰り越すものの施設でございますが、滝田地内、敬愛会で実施するものでございます。29床で1床当たり先ほど御説明申し上げましたとおり60万円で、合わせて1,740万円が1カ所目でございます。

2つ目の施設がグループホームでございます。場所は下川井地内でございます。NPO法人いかんべが実施する予定になっております。認知症グループホームですね。こちらは18床で、先ほどの60万円単価でございますので、1,080万円になってございます。

3つ目が小規模多機能ということで、こちらは平成25年度実施の予定で敬愛会、滝田地内で実施することで選定になってございます。こちらが9床でございますので、540万円。合わせて3,360万円ということで介護施設準備経費ということで、国からそのまま流れて、トンネル事業で市の予算を通過して各事業者のほうに流れるというものでございます。

もう1点、13ページということでございましたが、6,000万円でございます。これは先ほどの5ページと同じところにありますように、こちらやはり同じでございます。介護基盤緊急整備等臨時特例事業費補助金ということで、やはりこちらについても開設する施設について1所当たり3,000万円ということで、先ほど申し上げましたうちの施設の中でグループホームの分ですね、いかんべのほうですね、下川井地内。こちらと小規模多機能、この2つの施設にそれぞれ3,000万円、3,000万円、合わせて6,000万円ということでなされ、補助がやはりトンネル事業ということで、そちらに補助を出すというものでございます。

以上です。

続きまして、関連でございますあすなろ作業所の関係でございます。ちょっと順番が飛んでしまうかと思いますが、あすなろ作業所につきましては、旧烏山町で昭和41年に旧母子保健センターということでつくった施設でございますので、築47年がたっております。ということで、そちらの施設につきましては、これまで利用してはありますが、烏山の中央にあすなろ作業所が新しくできましたので、現在はあそこは使われておりませんが、あすなろのほうが今年度ずっと開設して利用しておりますけれども、古い施設のほうから逐次使える資材、例えばいすとか機材関係、少しずつまだ搬出してありますので、今年度中についてはまだ解体はしなかったということでございまして、来年度以降、公共施設跡地利用検討委員会等において議論をいただきながら、施設については方向性としてはもう古い施設でございますので解体、そして更地という方向性はおおむね出ているところでございますが、先ほどありましたように、道路の関係の待避所等いろいろな利用形態等があるかと思っておりますので、そちらの御意見等をいろいろ総合的に勘案しながら、跡地の利用について検討を進めていきたいというふうを考えてございます。

以上です。

○議長（中山五男） 川堀生涯学習課長。

○生涯学習課長（川堀文玉） 概要書の6ページの歴史民俗資料館策定構想ということで御質問をいただきました。こちらは概要書1ページの主要事業の中の11番の歴史資料館基本構想、この事業でございまして、議員の皆様も御承知のように、南那須歴史民俗資料館が震災の影響で本年廃止をいたしました。また、烏山資料館につきましても、明治時代の建物を寄附いただいて資料館として活用してございますが、かなり老朽化した、また震災でも被災したというようなことで、貴重な文化資料等が散逸してはならないということで、本年度資料館の策定業務を行うということで予算計上したところでございます。

建物を建てる敷地等も含めてあとは建物の展示構想等についてもこの計画の中で練っていく予定でございます。

以上です。

○議長（中山五男） 網野健康福祉課長。

○健康福祉課長（網野 榮） 先ほどちょっと答弁が漏れてしまいました。障害児支援事業費の増加の件でございます。こちらについては自立支援法等の法律改正がございまして、その対象となる関係の事業等がふえておりますので、それらに伴って給付費がふえているという法律改正に伴う理由ということでございます。

以上です。

○議長（中山五男） 鈴木こども課長。

○こども課長（鈴木重男） それでは、14ページの放課後児童クラブ健全育成事業が金額がふえている根拠でございますが、一昨日、条例改正、今、付託の段階でございますけれども、今まで学童保育、いわゆる放課後児童健全育成事業につきましては、実施規定で実施をしておりまして。それで、利用料の徴収も委託業者にお願いをいたしまして、差額を委託料からお支払いをしていたということで、その取り扱いを今回変えます。

それで、今回、利用料分が1,400万円、差額になっている形でそれがふえるという形になろうかと思えます。

以上でございます。

○議長（中山五男） 4番渡辺健寿議員。

○4番（渡辺健寿） おおむねわかりました。まちづくりプランの検討委員会につきましては、烏山線沿線整備関係のみが副市長が会長ということで発足しているということでありまして、それ以外はこれからということのようでありまして。会長は未定ということでありまして、事務局は一番は中央公園、ここからは総合政策になるのかな。デマンドはあれでいいんですか、危機管理室で。農商工連携は農政課なんだか商工観光課なんだか、段取りする準備、事務局は。

それと同じように、環境は多分環境だと思えますが、市営住宅からは都市建設課、文武両道は生涯学習かな、その次もそうかなという想像はされますが、事務局がどこになるかだけでも教えていただければと思えます。

地デジにつきましては、まだまだそうしますとあるということですね。13カ所もあって、そのうち2つぐらいは総務省のほうで対応可能かなという話のようでありまして。もうそろそろ終わるのかなと思ったらまだまだあるという解釈でよろしいのかなと思えます。

消防庁舎につきましては、ことし5億7,000万円とかと言いましたが、ここで庁舎建設負担金として10億円が載っているんですけども、どう解釈すればよろしいのかお願いしたいと思えます。

特養ホーム等の開設の話、3つの内容につきましては説明がありましたが、開設準備ということでありまして、それぞれ何年の開設を前提に準備されているのか、お聞かせいただきたいと思えます。

歴史民俗資料館は全くこちらからの提示案はまだ固まってないという解釈かなと思われまして。以上の件ですね。

あと最後に申しました市道の待避所の件につきましては、市有財産の検討委員会云々とありますけれども、朝夕通る道路の待避所の建設でありますので、入り口部分あたりがちょうど見通しの悪いネックになっておりますので、総務課も健康福祉課も都市建設課も絡む問題だと思えますけれども、協議の上、早目に何とか具体対案をつくってもらえればと思っております、これはお願

いしておきます。

以上もう一度お願いします。

○議長（中山五男） 國井副市長。

○副市長（國井 豊） 各種委員会等の事務局でございますが、中央公園につきましては総合政策課でございます。デマンド交通エリア拡大関係につきましては総務課危機管理室でございます。農商工連携につきましては、現在、農政課あるいは商工課どちらかで当然やることになるかというふうに思っておりますが、現在、調整中でございます。JR烏山線沿線につきましては、商工観光課でございます。環境基本計画後期計画でございますが、環境課でございます。市営住宅橋梁長寿命化関係につきましては都市建設課になります。長者ヶ平、歴史資料館関係、体育施設まで、これらにつきましては生涯学習課になります。文武両道は学校教育課になります、8番ですね。

以上です。

○議長（中山五男） 清水危機管理室長。

○危機管理室長（清水敏夫） 先ほどの消防庁舎建設関係とその負担金ですが、この負担金10億4,819万3,000円については、消防費の負担金、消防職員とかそちらのほうの運営のほうの負担金が4億7,525万6,000円、消防庁舎建設分の負担金が5億7,293万7,000円、このような内訳になっております。

以上です。

○議長（中山五男） 網野健康福祉課長。

○健康福祉課長（網野 榮） 施設の開設時期等についての御質問があったかと思えます。3施設でございますが、順次お伝えをしたいと思います。まず、第1番目の地域密着型特養ですね、滝田地内のものについては、この事業については平成24年度からの繰越事業ということで補正予算で繰越の議決をいただいた事業でございます。こちらにつきましては、おおむね年内いっぱい、秋口からあるいは年内いっぱいにはオープンにたどりつくというような事業工程を聞いております。

それから、2点目の認知症グループホーム18床でございますが、こちらについては今年度中いっぱい、平成25年度中いっぱいかかりますので、来年の4月以降からの稼働になるのかなというふうに計画を見てございます。

それから、3点目の小規模多機能施設でございます。こちら滝田地内でございますが、こちら9床、こちらにつきましてもやはり平成25年度事業でございますので、平成26年度4月から稼働できるような予定で事業を進めるということで、県とも協議しているところでございます。

以上です。

○議長（中山五男） 川堀生涯学習課長。

○生涯学習課長（川堀文玉） 歴史民俗資料館の構想でございますが、内部では場所等、規模等についてはある程度検討しているところでございますが、これから構想策定委員会等を立ち上げて正式に決定していきたいと考えております。

○議長（中山五男） 4番渡辺健寿議員。

○4番（渡辺健寿） 再度地デジの話、くどいようですが、まだ残っているということと何年ぐらいで市内全域を見通しているのか。確約にはならないと思いますが、見通しだけお願いできればと思います。

○議長（中山五男） 坂本総合政策課長。

○総合政策課長（坂本正一） 先ほど御説明しましたデータが今年の9月末時点のデータでございますので、その後若干内容が変わっているかと思いますが、2015年の3月までに移行しないと受信できない、テレビが見られなくなってしまうということでございますので、それまでには全市内を対応していきたいと考えてございます。

○4番（渡辺健寿） 了解。

○議長（中山五男） 5番久保居光一郎議員。

○5番（久保居光一郎） 私も何点か伺いたいと思います。私、この市の予算概要のほうに基づいて質問を何点かさせていただきます。

今、渡辺健寿議員からも質問がありましたけれども、1ページの主要事業の特徴、これの1番知恵と協働によるまちづくりプラン、これは11委員会並びに検討委員会がありますよね。これは要望なんですが、1つ1つのことについてどこが担当かというのは、先ほど渡辺議員が訪ねられました。この中に、何年も前から立ち上げている委員会もあるわけですね、結構ね。

それで、私、一般質問でも言いましたけれども、こういう委員会を立ち上げるのは結構なんですが、とにかくスピードを持ってやっていただきたい。それと、民間で言えば、5W1Hというんですか、いつ、どこで、誰が、何を、どういう方法でというのをきちっとそういうスケジュールを立てて民間はやるわけであります。

ですから、行政は行政なりの手法はあるんでしょうけれども、やはりそういう民間並みのスピード感を持って、そして具体的な成果を上げる。効果を上げる。それをしないと、民間は責任問題であります。行政の方は責任をとれとは言いませんけれども、そういうやはり民間の場合は危機感を持ってやっているわけです。ですから、行政は民間手法を用いてと言いますけれども、実際にそういう危機感を持って進めていただきたいなという要望を1つしておきたいと思っております。

それでは、個々の質問に入りたいと思います。まず、第1点、5ページの地域ICT活用モデル構築事業費、きずな運営センター運営委託費等という部分で869万円の予算が計上されておりますけれども、このきずな運営センターはデマンド交通の統括もやっておられるところかなど。あと児童の見守りなんかもやっているんですか。このきずな運営センターの業務内容についてちょっとお知らせいただきたいと思います。

2点目が、同じページの安心して暮らせる思いやりのあるまちづくり、これの熊田診療所特別会計繰出金1,560万3,000円とありますけれども、これは2年ぐらい前に熊田診療所赤字で困るのではないかというようなある議員からの質問があったかと思いますが、そのときに市長は改善の方向に向かっているというふうに言われました。あれから2年ぐらいたっているかと思うんですが、本当に改善の方向に向かっているのか。このまま毎年繰出金をどんどん出すような形になっていくのか。その辺の見通しを伺いたいと思います。

3点目が介護施設開設準備経費助成事業費、これも同僚議員が質問したかと思いますが、私は違う観点から質問したいと思います。こういう介護施設を開設するのは大変結構なことだと思うんですが、今のこの介護施設、特に特別養護老人介護施設に入りたくても入れない方がいらっしやるかと思うんですが、これは1人の人がいろいろな施設に申し込んでいますから、ダブルカウントになっている部分もあるかと思いますが、何人ぐらい待機しているのか。もし、おわかりでしたら教えていただきたいと思います。

それから、その2行下、放課後児童健全育成事業費、放課後児童クラブ委託料でございますけれども、これはその学校別に幾らぐらいの、この3,862万9,000円、学校別にもしわかりましたら、この委託料をお知らせいただきたいと思います。

それから、これもまた質問がございました。文武両道推進事業、委員会を立ち上げるとのことです。私は議員になってからずっと言っているんですが、文武両道ですからスポーツだけじゃなくてやはり文化的な活動、これは日本舞踊もあるでしょうし、ダンスもあるでしょうし、絵画もあるでしょうし、音楽もあるでしょうし、そういうようなものも加えて、できればサタデースクールと関連させたほうがいいのかどうか、その辺はまた検討かと思いますが、そんなようなこともお考えいただけるのかどうか、伺いたいと思います。

それから、その下の学校給食センター運営費、これはいろいろありましたけれども、今年の9月からもう半年以上たっているわけですが、これは順調に運営されているのか。その経過について伺いたいと思います。

続きまして6ページ、歴史民俗資料館施設整備費（構想策定）これも同僚議員から質問がございました。私はこれも要望でございますけれども、構想は大変どっちも郷土資料館も歴史民俗資料館も傷んでおりますので、これは必要かなというふうに思いますけれども、できれば現

有施設、今ある市の施設を十分に利活用していただきたいなという要望をさせていただきたいと思えます。

その次に、一番下の無駄のない自立的な行政経営、固定資産税課税事業費、評価替不動産鑑定委託経費とありますけれども、これはことし初めてですか。昨年からの引き続いての事業ですか。それと、この固定資産税の評価替えによって、今までの固定資産税よりも4倍高くとられたとか、7倍高く算出されたというような声を私は住民から聞くんですが、そういうクレームは税務課のほうに来ているのか、いないのか。また、この評価替えによって固定資産税はことしは若干減っていますよね。これが全部やることによってどのくらいふえるのか、減るのか。その辺の見通しも、もしわかったらお答えいただきたいと思えます。

1つ抜けました。これは予算書のほうの58ページ、10款1目社会教育総務費の説明欄に若者交流事業費76万9,000円とあります。これは婚活の費用だと思うんですね。それと同じくその下のほうに南那須結婚相談所連絡協議会18万円とあります。これ、市にも結婚相談員の組織があると思うんですが、結婚相談員の費用はないんですか。これはこの南那須というのは恐らく那珂川町と連携の部分をいうのかどうか。であれば、那珂川町と一緒にあって連絡協議会、これは負担金という形になっているんですが18万円、この中で市の結婚相談員のいろいろな活動というのはされているのかどうか。それについて伺います。

それからもう1点、64ページでございます。これはこういうことを聞いていいのかどうかちょっとわからないんですけれども、4の給与費明細書1特別職、職員数が長等と書いてあるところに2名、これが本年度ですね。前年度が2名。これ、ことしは2月から副市長がいらっしゃるわけですから、特別職というのは市長、副市長、教育長まで特別職というんじゃないんでしょうか。間違っていますか。であれば3名、これ、予算書ですよ。これは3名になってその金額は盛り込むべきなんじゃないのかなと思うんですが、私がわからないのかどうか。その辺について伺いたいと思えます。

議長、それから提案でございますけれども、お昼になりますので答弁は午後でも結構です。

○議長（中山五男） それでは、暫時休憩をいたします。

休憩 午前11時55分

再開 午後 1時00分

○議長（中山五男） 休憩前に引続き再開をいたします。午前中に5番久保居光一郎議員からの質問がありましたから、その答弁から始めたいと思えます。

大谷市長。

○市長（大谷範雄） それでは、久保居議員の熊田診療所関連につきましては、お医者さん

のこともありますので、私のほうからお答えをいたします。

一般会計繰出金が一時ちょっと上向いてきたこともありました、年々やはり繰出金が減じていないという事実は間違いございません。決算時に課長同席のもとで、毎回懇談はして経営改善を図っているところでございますが、実績としてはそういったところが改善されていない。御指摘のとおりであります。

その原因ですけれど、やはり端的に新しい患者さんがふえていないということなんですね。したがって、この国民健康保険なり高齢者を中心に診療をされておりますので、物故者がいなくなると、その分だけはやはり減じていくというようなのが事実だろうと思っはいるんですが、ただ、あそこの新しい患者さんがふえない理由の多くは、プライバシーもあるものですから細かくは申し上げませんが、健康、あるいは医療に対する理念、独特なものがございします。そのようなところから新しい患者さんがふえていないのかなというふうに私は考えています。

しかし、そうは言っても、独立採算を堅持しなければなりませんので、都度そういった経営改善に向けた指導はしていきたいと思ひますが、ただ、私、感心するのは島田医師から引き継いだ往診、これは着実に行っていただいております。そういうところからきのうも樋山議員から御要望、御質問をいただいた在宅医療の件、これをあそこはもう少し充実をさせたいと思ひています。往診をさらにふやして収益に結びつけると、高齢化社会の皆さん方が要望することと一致するというふうに思ひますので、在宅医療をさらに市として充実すべく、そういったところに賛同してもらひ。このような形をとっていききたいと思ひています。

まだまだ大変な状況ではありますけれども、あそこのへき地医療としての診療所は、なくてはならない欠かせない診療所でございますので、今後とも先生とよく話し合いをしながら、健全経営に向けた努力をさらに私とともにやっていくというようなことを指導していきたいと思ひますので、ひとつ御理解いただきたいと思ひます。

○議長（中山五男） 坂本総合政策課長。

○総合政策課長（坂本正一） それではまず第1点目に、地域ICT利活用モデル構築事業の件で、きずな運営センターへの委託業務内容ということでお問い合わせをいただきました。御存じのように、この地域ICT利活用モデル構築事業については、平成20年度に国の補助金をいただきまして構築したシステムでございますが、大きく4つのシステムがございます。

高齢者の見守りシステム、児童見守りシステム、健康確認システム、スクールサポートシステム、この大きく4つのシステムの管理運用を委託している経費、それからあわせてその際に構築をいたしましたシステムの管理をしているサーバーですね、こちらを高根沢町にございます情報の森のTKCのデータセンターのほうに置かせていただいているということで、そのデータセンターの使用料250万円程度が含まれております。

そのシステムの概要について簡単に御説明をさせていただきます。まず、第1点目の高齢者の見守りシステムでございますが、これはひとり暮らしの高齢者の世帯に対しまして携帯電話をお貸ししまして、日常の安否確認であるとか、あるいは緊急時の連絡ですね、そういったもののやりとりを、きずな運営センターのほうでやっていただくというシステムでございます。

それから、児童見守りシステムにつきましては、小学生の登下校時の情報を保護者のほうにメールを配信するというシステムでございます。

それから、健康確認システムについては、児童の見守りにつきましてボランティアの方に下校時、児童見守りをしていただいておりますけれども、その際、万歩計のほうを貸与いたしまして、実際65人の方がいらっしゃいますけれども、その方の万歩計の情報をきずな運営センターのほうで機械のほうを使いまして健康情報を確認するというようなシステムでございます。

スクールサポートシステムにつきましては、いろいろな児童の登校班の情報であるとか各種の情報をデータ化したしまして、児童の情報の一元管理を行うためのシステムということで、現在、小学校のほうはこのシステムを使ったデータの整理を進めているところでございます。

大きくこの4つのシステムがございますが、このほかに地震等の際の緊急連絡について、各学校から保護者宛てにメールを送信するシステム、こちらについても平成24年度は小学校だけですが、運用を開始しております。あわせまして、平成25年度には中学校、幼稚園、保育園、それぞれ各施設から緊急連絡情報を直接保護者のほうにメール送信できるようなシステムを運用する予定でございます。そういったシステムの運用管理をお願いしているところでございます。

なお、デマンド運行に関しますコールセンター業務につきましては、清水室長のほうから御説明をいたします。

○議長（中山五男） 清水危機管理室長。

○危機管理室長（清水敏夫） 平成25年度のデマンド交通のコールセンターへの予約システムの委託ですが、予算的には619万5,000円ということで予算は計上してあります。なお、今年度については半年でございますが、325万5,000円ということで予約の委託を行っております。

以上です。

○議長（中山五男） 網野健康福祉課長。

○健康福祉課長（網野 榮） 私のほうから介護施設整備に関しまして特別養護老人ホーム、いわゆる特養の待機者は何人かという御質問でございます。こちらにつきましてお答えを申し上げたいと思います。待機者については、平成23年度に調査したところでございますが、平成23年度に調査したものは、現在の第5期介護保険事業計画が平成24年から平成26年ま

での3カ年の計画をつくる参考にしたものでございますが、平成23年度においては調査では157名が待機者という数字でございます。

これの計算につきましては、特養に入りたいという申込者が約450名いらっしゃいまして、その後やはり重複申し込みですね。あっちの施設、こっちの施設ということで重複で申し込んでいる方がいらっしゃいますので、そちらを調整しますと約250人になります。その250人のうち、特に介護度が高い、特別養護に入る対象である介護度が高い4とか5、こちらの重度の方が最終的には待機者ということで157名という数字で捉えてございます。

以上です。

○議長（中山五男） 鈴木こども課長。

○こども課長（鈴木重男） それでは、放課後児童クラブのそれぞれ施設の場所によつての金額は幾らかというふうなお問い合わせだったと思います。中に共通経費もありますので、若干その辺は説明させていただきますが、保険料とか燃料、それから消耗品事業費という形でこちらは省略させていただきますが、大半が人件費というふうな取り扱いになります。総体事業費の約9割程度、それぞれ申し上げます。

烏山第1のほうでは667万円、第2のほうが343万8,000円、江川小学童クラブ667万4,000円、同じく荒川も667万4,000円、境が505万6,000円、七合も同額505万6,000円、その合計額3,350万円となります。それが約9割程度の人件費取り扱いとなります。

以上です。

○議長（中山五男） 大野学校教育課長。

○学校教育課長（大野治樹） それでは、学校教育課関係で2件質問があったところでございます。最初に1点目の文武両道についての件でございます。議員が御提案のように、音楽や舞踊などについての御提案でございますが、スポーツのほかにも幅広く議員から御提案いただいたような内容についても、今後、検討委員会においてその取り組みについて検討してまいりたいと考えてございます。

それから、学校給食センターの運営についてでございますが、やはり当初は新しい施設で業者のほうも調理業務であるとか、あとは今度新しい配送コースになっておりますので、運搬の時間とか若干そういった時間的なものはございましたが、施設等、現在、業者のほうもなれまして、衛生管理等、事前管理等の厳しいチェックも入っておりまして、現在順調に稼働しているところでございます。

○議長（中山五男） 川堀生涯学習課長。

○生涯学習課長（川堀文玉） 久保居議員から予算概要の中で歴史民俗資料館構想策定とい

うようなことで御質問をいただきました。議員提案のとおり、現有の市有施設等の利活用につきましても十分検討してまいりたいと考えております。

また、予算書の中で58ページの若者交流事業というようなことで御質問をいただきましたが、こちら、予算額76万9,000円のうち、若者交流には50万円を、また南那須地区結婚相談所連絡協議会への負担金として18万円を計上してございます。残りの8万9,000円が結婚相談員の活動にかかる経費でございます。

以上です。

○議長（中山五男） 澤村税務課長。

○税務課長（澤村俊夫） 固定資産税のお尋ねがございました。評価替えの関係でございますが、ことし初めてか継続かというお尋ねがございましたが、これにつきましては3年ごとに評価替えを行っておりまして、平成24年度が評価替えでございました。次の評価替えは平成27年ということになります。継続してその後も行っていくということでございます。

次に、評価替えに伴いまして平成24年度クレームが来ているかいないかということでございましたけれども、これにつきましては、クレームは確かに何件か税務課のほうにまいっております。この原因といたしましては、平成24年の評価替えに伴いまして、従来旧南那須町、旧烏山町の評価の方法がちょっと異なっていたものですから、それを旧烏山のほうの方式に統一したということで、内容は旧烏山の場合は地目によって一律の単価というようなことで決められていたこともございまして、それを路線価格に基づきまして評価替えを行った。ですから、幹線道路の近くは評価が上がるというような形で、幹線道路沿いの特に雑種地等につきましては大幅に評価が上がったということでございます。

次に、どのくらい固定資産税のほうかふえるかどうかということでございましたけれども、先ほどの予算概要の資料のお尋ねの6ページの固定資産税課税事業費3,888万2,000円という金額は、13ページをごらんいただきたいんですが、13ページの上のほうに税務課関係の記載がございまして、市税賦課事業費6,131万8,000円、これが賦課関係の事業費でございます。そのうち住民税関係とか、法人市民税とかいろいろ事業費が分かれてございますけれども、この金額が大きい、固定資産税課税事業費3,888万2,000円と、その下のほうの市税徴収事業費3,164万2,000円、これが重点事業としてこの6ページのほうに移記されておまして、中身は評価替え、不動産鑑定評価委託経費ということで固定資産税のほうに新規のように書いてありますけれども、全体としましてはこの中身は消耗品から固定資産税賦課にかかる全体の金額がここに記載されてございます。

3年ごとの不動産鑑定、評価替えに伴いまして、平成25年度はそのうち不動産鑑定を3年のうちの1回だけ入れるということで平成25年度は予定しておりますので、1,514万円

ほど予定しているんですけれども、その金額が入っておりますために、この黒丸で新規事業というようなことで評価替不動産鑑定委託経費ということで入っておりますけれども、来年度の固定資産税がふえるかどうかというところでは、この前の3月補正予算の中で固定資産税の現年課税分を減額させていただきました。2,700万円減額させていただきました。これは評価替えに伴う減ということで考えております。

また、平成25年度につきましては、予算書の11ページでございますけれども、固定資産税4,980万円ほど前年度に比べて減額させていただいております。これにつきましても、やはり固定資産の評価替えに伴う分が大きいというふうに考えてございます。3.6%減になるかと思えます。

以上です。

○議長（中山五男） 栗野総務課長。

○総務課長（栗野育夫） 予算書の64ページの長等の特別職の給与についてでございますが、教育長は教育職として学校教育法また条例上職員の令により支給しております。したがって、67ページを開いていただきたいんですけれども、真ん中に教育職というのがございます。最上段に1名、7級の上に職員数1名とあるのが教育長でございます。なお、予算措置につきましては、55ページ教育総務費事務局費の中で予算措置を講じております。

以上です。

○議長（中山五男） 久保居議員。

○5番（久保居光一郎） 答弁をいただきました。地域ICT利活用モデル構築事業費、きずな運営センターの業務内容はわかりました。ただ、もう1点聞きたいのは、先ほどこの中でデマンド交通が619万5,000円、ことし計上しているということでございましたけれども、これは869万以外の部分ですよ。わかりました。了解です。

熊田診療所についてでありますけれども、市長から答弁をいただきました。私も市長と同じように考えております。やはり先生が独特の医療理念をお持ちなのかなと。ただ、前任の島田先生の中には、黒字でずっと運営しておられたかと思しますので、ずっと繰出金があるので気になって聞いてみました。市長答弁のように、独特の理念で医療をやっておられる先生でございますので、ぜひ往診のほうをさらに力を入れてやっていただいて、また、経営的にも改善されるようにひとつ御努力をお願いしたいと思います。

介護施設についてでありますけれども、実際に申し込み者が450名いて、ダブっているのが個人であれでカウントすると250名だと。その中で本当に介護度の高い方が157名という答弁をいただきました。

しかし、この157名、多いですよ。これからそういう特養の施設というのはどんどんつ

くらなければならないと思うんですが、つくるにしてもいろいろな県の認定とか何かがあつて大変かと思うんですけれども、ただ、みんな高齢者が多いですから、待っている間に亡くなってしまうということもありますので、この辺の対応を今後どうされるのか。ちょっとわかっている範囲内でいいですから、もう一度御答弁をいただきたいと思います。

それから、放課後児童健全育成の委託料ですね。これについては了解いたしました。

文武両道教育推進事業、これも学校教育課長から以前から私が申し上げておりますように、文化、スポーツ両方にわたって、そしてまた小学校1年生から中学校3年生まで全員にこの事業が展開されるように要望をしておきたいと思います。

それから、学校給食センターについても順調に、最初はちょっとなれない部分もあつてとまどったけれども、今のところ順調に運営しているということでございますので了解いたします。

それから、歴史民俗資料館についても、今ある施設も視野に入れて検討するというところでございますので、これも了解をいたします。

それから固定資産税の課税事業費に関連してお聞きしたんですが、これ、先ほど税務課長から烏山方式にのっとり、今度幹線道路沿いはその路線価に従って算出したので、幹線道路の方は固定資産税が数倍上がったということでございますよね。これ、4倍とか10倍とか上がったというふうに私は聞いているんですが、ちょっと4倍、10倍ということになるとかなり負担になるのではないのかなと思うんですが、本当に4倍とか10倍とか、そういう事実があるのかどうか。もう一度改めて確認をしたいと思います。

それから、58ページの10款の社会教育の中の若者交流事業費、これは50万円が若者交流事業費、18万円は額面どおり南那須結婚相談所の連絡協議会、そうすると結婚相談員の活動費というのが8万9,000円ということでございますけれども、ここで再度お聞きしたいのは、若者交流事業で昨年やられたかと思うんですが、これで成婚率、結婚するに至った組数があるのかどうか。また、結婚相談員の活動によって、結婚にまでこぎつけたカップルがあるのかどうか。それについてお聞かせいただきたいと思います。

○議長（中山五男） 網野健康福祉課長。

○健康福祉課長（網野 榮） ただいま久保居議員のほうからありました待機者に対して、今後の介護保険施設の整備についてどのような考えを持っているかということでございます。こちらについてもいろいろな方面から議論をしなくちゃならない点が多々あるかと思えます。その中で、当面施設整備、現在挙がっております先ほど申しました第5期介護保険事業計画におきまして、そういった先ほどの待機者を少しでも解消しようと。157名の数字がありましたので、やはり在宅ではとても介護できないという方を収容するための施設ということで、施設整備をしようということで、これまでのお話し申し上げておりますように、特養がこれか

ら先ほどありましたように地域密着型で滝田にできます。それから、三箇地内にもこれから増床を含めて特養がございます。広域型で50床を第5期計画の中で平成26年度を目途に、こちらにもまた予定してございます。特養以外にもありましたように、認知症グループホームですね、こちらにも地域密着型でつくろうということで、先ほどありましたように18床で下江川地区に建つということで考えております。

また、こちらの両方兼ねたような在宅を支援するという意味で小規模多機能型ということで、当面こちらの重度の方を対応するために、ことしを含めて3カ年の間に第5期計画の間に少しでも解消できるようにということで施設整備のほうはそういうことで考えてございます。

また、その施設ばかりでいいのかということで、施設をつくりますと給付費が伸びます。その関係でやはり、これからはソフト面で介護にならないような予防策、いわゆる医療で言えば治療より予防だということと同じように、介護予防の充実に努めるということで考えてございます。

また、そんなに待機者がいるのでは、話がくどいようですが施設整備したらよかろうということもありますが、反面、これを裏づける介護保険料の手当についてもやはり相反する面で考えなくちゃいけないということで、今回の第5期計画においても、約40%のアップということでいろいろな御意見等がありましたけれども、こちらと両方をにらみながら施設整備に努めて、これからやはり在宅、きのうも一般質問の中でありましたように、施設介護よりやはり在宅介護の充実に努めていきたいというふうに考えておまして、これから平成27年から始まります第6期の介護保険事業計画の中にそういった理念を取り入れて、待機者が1人でも減るような形で対応していきたいと思っておりますので御理解をいただきたいと思っております。

以上です。

○議長（中山五男） 澤村税務課長。

○税務課長（澤村俊夫） 固定資産税の関係で4倍、10倍というようなことが実際あったのかどうかというような御質問でございましたけれども、先ほど烏山方式と言いましたけれども、烏山方式というか、これは一般的な評価の仕方に変えたということでございまして、必ずしも烏山方式が独自のものであったということではございません。一般的な路線価方式に変えたということでございます。

それで、従来南那須地区の特に雑種地なんですけれども、これが平米一律1,500円というように評価でされていたということがございまして、これが那須烏山市の平成24年度の固定資産税の総務大臣の算定する平均価格ということで宅地が7,954円と出ておまして、雑種地の場合はその70%とかになっておりますけれども、70%としますと大体5,600円程度になるかと思っておりますけれども、1,500円が5,600円になりますと約4倍に

なったということで、これは平均的なところでございまして、あくまでも幹線道路に近いところはさらにアップになるというようなところで、その路線を道路から少し奥に入っていると幹線道路に近いとか、そういったところで大幅な見直しになったというところでございます。

以上です。

○議長（中山五男） 川堀生涯学習課長。

○生涯学習課長（川堀文玉） 久保居議員から若者交流事業の成婚状況とか御質問をいただきましたが、今年度も料理教室、それからツインリンク茂木をお借りした事業、3月、これからなんですが、男性を対象にした男磨き講座というような形で実施しておりますが、2回ほどやった男女を混ぜた交流事業では、カップリングまではいったということを聞いておりますが、その後成婚については確認しておりません。

また、結婚相談員の活動でございまして、相談員は日々いろいろな活動をしていただいております。まだ、非公式ではございますが、今、1組、成婚に向かって進めているというようなお話は伺っておりますが、まだ完全な成婚というまでには至っておりません。

以上でございます。

○5番（久保居光一郎） 了解しました。

○議長（中山五男） 7番高德正治議員。

○7番（高德正治） 那須烏山市予算概要の中の主要事業の特徴で、先ほど同僚議員からも質問がありましたが、その中で中央公園整備、そして歴史資料館、そして体育施設整備についてお伺いいたします。

中央公園整備ということで、これから検討委員会を立ち上げますが、この3事業共通ですが、予算の規模がどのぐらいになるのか。そして、財源は何を使うのか。そして、時期はいつごろを予定しているのかをお伺いいたします。

また、3番の雇用対策で企業誘致の推進活動を積極的にとありますが、なかなかこれ厳しい結果で終わっていると思いますが、平成25年度は何か変わった施策があるのかをお伺いいたします。

観光施設の災害で1,000万円ということでわかったんですが、特にこぶしの湯がまだそのままだ状態であるので、そういった方向性もどうなっているのかをお伺いいたします。

以上です。

○議長（中山五男） 坂本総合政策課長。

○総合政策課長（坂本正一） ただいま知恵と協働によるまちづくりプランの中の中央公園、歴史資料館、体育館等の整備検討委員会の内容について御質問がございました。こちらにつきまして、予算の規模あるいは財源をどうするのか。なおかつ建設の時期はいつかというような

ことでお問い合わせでございますが、4月以降、具体的には検討委員会のほうでそれらを検討していく。あわせまして事業の手法ですね、事業主体が市となるのか、あるいはPFI等を活用しながらやっていくのか。また、建設時期等についてどうするのかということにつきまして、4月以降、具体的に検討させていただくこととなりますので御了承いただきたいと思います。

○議長（中山五男） 高橋商工観光課長。

○商工観光課長（高橋 博） 緊急雇用対策関係で企業誘致関係でございますが、これらにつきましては、まず、現在までの企業奨励金ですね。平成25年度は12月の議会で承認いただきました企業誘致奨励金関係で、現在、奨励金3年間を新規事業については6年間交付するというのが一番の大きな改正でございます。

また、それらの企業が雇用した場合に、3名以上雇用した場合には1人当たり30万円を交付するというので、新事業につきましては6年間で既存の事業所につきましては3年間、また、用地買収等につきましても今回新たに買収費の限度額まで補助するというので大きく変わっております。

また、企業奨励金でメガソーラー関係ですね。こういった進出業者に対しても、今回該当するようにしております。また、バイオマス等も同じ考えでございますが、今回、それらの制度については、新事業については1月1日から施行するというのでございます。

以上でございます。

こぶしの湯関係でございます。これらにつきましては、休養村の解体関係で、今年度詳細設計ということで予定しておりましたが、実はこれらの休養村関係で補助事業ということがありまして、現在、農政課のほうで国のほうと補助事業について協議をしております。また、御承知のとおり、進入路付近の大規模な崩落現場2カ所、そこが当初予定しております治山工事が若干おこなわれているということを見まして、今回、補正予算で平成24年度の詳細設計を減額しております。

というのは、そういった事情がありまして、早くとも解体が平成26年以降になるのかなと考えております。ということで、実は今回、詳細設計を組みましても、実際に平成26年、平成27年になつては、単価等が当然合わないということで、今回まことに申しわけないということで減額したということでございます。解体については今申し上げましたように、国との協議中であるということが大きな原因です。あとは治山工事が予定よりおこなわれているということで解体がおこなわれているということでございます。

以上でございます。

○議長（中山五男） 7番高德正治議員。

○7番（高德正治） 企業誘致ということで、今のメガソーラーとかバイオマスということで、その辺の分野の事業所を対象にPRをして烏山に1つでも多くの企業が出るようにPRをお願いをいたします。

また、こぶしの湯も国との協議でおこなっているということですので、今の状態を続けていてもこれは仕方ありませんので、早く協議をして解体だったら解体ということで進めていただきたいと思います。

あと歴史資料館と体育館、その中で歴史資料館は、隣の町のさくら市は旧喜連川高校に歴史資料館をつくるという形で進んでいると思うんですが、那須烏山市においてはこの歴史資料館という場所は決まって……。先ほど敷地は決まっているというところだったですかね。検討していくということです。その辺が多分資料館を進める上で、場所によっては県との協議に入っていくのかなという……。歴史資料館に対しましては選定場所、あとは使いやすさとかそういったものを優先に進めていただきたいと思います。

また、体育館整備の中で特に今回、武道館ということで、この検討委員会となると那須烏山市全体の中で選定されていくのか。その辺の方向性をお伺いいたします。

○議長（中山五男） 川堀生涯学習課長。

○生涯学習課長（川堀文玉） 体育施設、特に南那須武道館が震災の影響で休止状態になってございます。その辺をメインに今回検討させていただくということで検討委員会を立ち上げる予定でございます。

○議長（中山五男） 8番佐藤昇市議員。

○8番（佐藤昇市） 平成25年予算書のまず35ページ、扶助費のほうから聞きたいと思います。今予算では2億6,000万円ですね。年々この予算の概要書にも一般財源ということで、一般会計の中でも扶助費の年々増加と書いてあります。今回は増加するということは生活保護をもらう人がふえるという意味だと思っておりますが、お金はどうあれ、生活保護を受けさせないようにするのも役所の務めではないかと。それから、生活保護を受けている人を生活保護から脱却させる。そういうことの中で市はどのようなことを考えているのか。黙っていると年々ふえてしまうと、国でも扶助費の削減とかいろいろありますが、その前にそういうもらっている人、また、もらわないようにするためにどうするか。そういうことを市でも真剣に考えて、そこから脱却させるぐらいの気持ちでやってもらえれば一番いいのかなと思っておりますが、その考え方をお聞きしたいと思います。

あと、83ページ、農業関係の新しく今回、平成24年度にはなかったんですが、平成25年度に予算化しているのが農業関係はたくさんございます。課長の働きかけでいっぱいできたのかなと思って私もうれしく思うんですが、その中で一般財源でも、平成25年度予算概

要にも農業関係が出ています。その中でも平成24年度はゼロで、今年度が新しく予算化されたものが三、四点あります。その内容についてお聞かせ願いたいと思います。

あと特別会計の国民健康保険ですか。同僚議員も先ほど質問しましたが、きょうも新聞に載っていて、今、課長のほうからも御説明がありました。そういう中で、国民健康保険の基金も底をついたということですが、今後、これから一般財源からお金も回っているわけですが、5年前に見直したような気がするんですが、最終的にはね。もうそういう時期に来ているのかなと。

これからこの取り組み方、一般財源からどんどんいくんだよと、とりあえず税金を上げないで頑張りますかというのと、いや、これは見直さなくちゃならないんだと。方向性が大体もう見えてきているんじゃないかと思うんですね。その考え方はどうなっているのか、お聞きしたいと思います。

あとは特別会計の上水道関係ですね。きのうも一般質問で渋井議員が老朽化対策計画ということで話が出ました。今回も上水道整備費5,700万円があります。しかし、毎年有収率がかなり低いということで、後期基本計画でもあと10年後には八十何パーセントにするんだという計画があります。そういう中で、ことし、また来年ということで、それをどのように有収率を上げるためにお金をつぎ込んでそこに持っていくのか。考え方についてまずお聞きしたいと思います。

○議長（中山五男） 平山福祉事務所長。

○福祉事務所長（平山 正夫） それでは、生活保護関係でございますけれども、議員御承知のように年々被保護世帯数がふえているというような現在は状況下でございます。それで、働けるものについての取り扱いかと思っておりますけれども、現在は福祉から就労ということでそういうような活動の中で働ける方は働いてもらうということで努力をしていただくということで、ハローワークとタイアップをして就労活動をしていただいております。

そういうことで、現在も実施をしておりますけれども、平成25年度からにつきましては、保護の相談あるいは受給をしている方、基本的に6カ月間をめどに就労していただきましょうというような活動をするということになっております。なかなか現在、仕事がないということで就労についてもらうことは難しいかと思っております。

現在は求人倍率が1.02人、1人に対して1よりちょっと多いかなというような求人状況なんですけれども、その内容を見ますと、看護職とかあと建設業で申しますとオペレーターとか何か特殊な免許を持っているというような方は割合求職はあるんですけれども、一般事務とかそういう簡単に言うと誰でもできるような仕事についてはなかなかないというようなことで、ハローワークと我々もタイアップして求職活動を進めているわけなんですけれども、現状の中では

なかなか難しい。そのような現状でございます。

以上です。

○議長（中山五男） 堀江農政課長。

○農政課長（堀江豊水） 御指摘の新規事業につきましては、概要書のほうの15ページですと3点ほどございまして、産地競争力強化ということで東日本の大震災関係ですが、これらにつきましては補正予算でもお願いしてございますが、放射性物質の吸収抑制をするための塩カリの購入費等の負担でございます。これは当初予算対比では新規になってはいますが、新規とかそういう形になってはございますが補正で対応してございます。

それから、農業団体の育成関係でございますが、これらにつきましては、農業者のパソコン関係の講習会とかそういうものの事務費的なもので対応してございます。

それから、農業団体の体質強化基盤整備ということですが、これらにつきましては450万円、これも農業団体の補助的なものでございまして、これは名前が変わってくるというのは農水省の得意なところでして、今までも形を変えてやっております。継続してやるというような形でございます。

以上です。

○議長（中山五男） 平山市民課長。

○市民課長（平山 隆） 国民健康保険の繰入金のことについてお尋ねがありました。3月補正予算では、例のルール分という繰り入れではなくて赤字補填の繰入金が5,967万円を繰り入れております。それから、徴収率におきましては、きょうの新聞で90.61%というようなことで高いほうから6番目でございます。栃木県自体が全国的に見ると徴収率が低い状態にありますので、低い状態であります。

それと、これは平成22年のデータで恐縮なんですけど、保険者1人当たりの医療費ですね。これが27万2,824円かかっております。それで、1人当たりの保険税の調定額が9万382円ということで、県内22番目の調定額でございます。ですから、ふえ続ける医療費に対して課税総額の調定額そのものが足りないという状況に現実としてあるわけなものですから、平成25年度1年間かけて市長並びに国民健康保険運営協議会で御相談願って対応していきたいと思っておりますので、よろしく御協力をお願いします。

○議長（中山五男） 樋山上下水道課長。

○上下水道課長（樋山洋平） 上水道事業の上水道整備費につきましては、今年度は配水管の布設と志鳥上川井の配水池の改修工事費を計上してございます。平成24年度につきましては、西野配水池の改修を行っておりますが、これは東日本大震災で敷地内がかなり打撃を受けたというようなこともありますし、老朽化による部分もございまして、年度計画で改修してい

る状況でございます。

また、もう一つの御質問の有収率を上げるための方策という考え方でございますが、一昨年までは配水管は市のほうで布設したものですから、その漏水については市のほうで負担しますが、給水管の漏水については給水管を布設した個人の方をお願いしておりました。

ただ、そうしますと、メーターより給水管側の漏水の場合、個人ではなかなか修理していただけない状態が続いております、それも有収率の低下になっているのかなということで、震災の影響もありまして、急激に平成23年度、平成24年度と漏水がふえておりますので、今後はメーターまでについては市のほうで漏水修繕をしていこうというふうな考え方でおります。

以上でございます。

○議長（中山五男） 8番佐藤昇市議員。

○8番（佐藤昇市） 今、1回目の答弁をいただきました。まず、国民健康保険税についてはどこの市町村も大変なことだと思います。直接市民に返ってくる健康保健で、上がると大変だということであまり市民は喜ばないものであります。しかしながら、運営するには何らかの方策が必要だと。いずれにしても、一般財源であれ、何しろ税金に変わりはないんだと思います。ただ、その考え方がどこから出すかということだと思いますので、しっかり委員会等で今後検討していただきまして、これ、なくなるわけにはいきませんので、ぜひ再検討をお願いしたいと思います。

特別会計のほうにいきます。水道のほうは特に老朽化している、莫大な延長面積ですから大変だとは思いますが、漏水は平成24年度、その見通しというのはどうなったんですか、結果的には、いっぱい出て60%の有収率だったのが、いくらか伸びたんだという話も聞きましたけれども、今後の見通しというのは、本当に80%にいくのかどうか。それを具体的に私たちはこういうふうにやります、こういうふうにやります、そして80%になりますというそういう計画が本当にあるのかどうか。ただ、漏水して老朽化したから直しますでは、絶対に80%にならないと思うんですね。そういうきちんとした計画がないとだめだと思いますので、再度そういうことをきちんと、那須烏山市は高い水だそうですので、ぜひ無駄にならないようにお願いしたいと思います。

極端な話、メーターまでは市がもつのは当然でありますから、そんなことは言われなくても誰もわかっていますから、お願いしたいと思います、メーターまではね。

そういうことで、今、水道メーターをここにも新たに10万3,000円だけ、その中で新規あります。そうすると那須烏山市は新規にするときは、今も13ミリが最低のそういうことになっているんでしょうか。ほかの市町村へ行くともう13ミリは使っていないですね。どこの市町村も20ミリが最低でございます。加入金も20ミリのほうが高くなりますから、市

にはお金が入るということになっています。だから、那須烏山市では個人では13ミリばかりだと思っんですね。そういう考えはほかの市町村ではもうずっと13ミリはないですね。ほとんど13ミリはなくなっています。ほとんど20ミリです。そういうことも踏まえて新たに収入が上がることも、値段が上がらなくても、加入する人にはちゃんと上がるように。メーターより多分加入金が高いと思いますから、そっちのほうプラスになります。そういうことも考えていただきたいと思います。

あと農業関係ですね。ここに東日本大震災のやつで113万4,000円ですね。そこでは今、そういう話がありました。あとここにネギの栽培の播種機が入っているんですね。これは多分一般財源だと思っんですね。そういうことで、そういう小さいものも、このネギの播種機というのは実際幾らぐらいするのか。これはまたJAと共同してのものだと思っんですが、今ネギも大事なんです、農業ではナスですね。ナスを結構一生懸命みんなやっているんですね。一番ナスは問題なのは選別なんです。大型化できないんですよ、ナスをみんなやろうとしても、単価は結構上がるんですね、値段は。ネギの播種機が買えるのであればナスの選別機も欲しいなど。そうすれば大型にできると。そしていっぱい市場へ出せるということも今みんな考えているんですね。そういうことも可能なかどうか。

以上です。

○議長（中山五男） 堀江農政課長。

○農政課長（堀江豊水） 東日本に関しましては、先ほど塩カリとかも申し上げましたが、今、御指摘のネギの播種機と移植機ですね、総事業費で114万円です。那須烏山市が4分の1で35万円、那珂川町が4分の1で35万円、残りがJAさん。これに関しましては、今、ナスのお話もありましたが、ネギに関しましてはJAネギ部会というのが初めて立ち上がったんですね。市の特産品としてネギの栽培等をやりたいということで、部会から強い要望があったということで、市町も若干援助しましょうというようなことで考えていまして、ナスに関しても、もしそういうことがあれば検討する余地があるのかなというふうには感じております。

あとは残りはGAPと言いまして、肥培管理から農薬の管理、そういうのを表につけないと今安全安心のやつが消費者に求められないので、グッド・アグリカルチャー・プラクティスと言っんですが、GAPということでそういうことを援助する経費も入ってございます。

以上です。

○議長（中山五男） 樋山上下水道課長。

○上下水道課長（樋山洋平） 上水道の有収率につきましては、平成23年度決算で62.23%というような非常に低い状態は決算議会のときに御説明したとおりでございますが、愛宕台配水池が新しくなりまして、多分平成24年度決算におきましては10%ぐらい上がる見

込みであります。それにつきましては、12月議会前の全員協議会で10月までの形をお示したあの程度になるのではないかというふうに考えてございます。

きのうの渋井議員の一般質問にございましたが、今後は老朽配水管等を更新していくということで、その配水管からの漏水が食い止められればと考えておりますが、きのうの一般質問でもございましたように、例えば約390キロを1年で6.5キロやっても60年かかるというような大変な長期間ですので、一挙に押さえ込むというのは非常に難しいことかなというふうに考えております。

平成24年度は南那須地区の漏水調査を行いまして、12カ所の漏水が発見されましたが、漏水量としてはかなり少なかったように聞いておりますので、漏水調査も何年かに一遍はやるべきかなと思いますが、毎年続けても費用対効果で見ますとなかなか上がらないのかなというのが実態でございますので、老朽管の布設替えに向けまして平成25年度は更新計画を立てていきたいと考えております。（「あと13ミリ給水管の考え方について」の声あり）

20ミリの量水器につきましては住宅メーカーなどはほぼ20ミリの設計でなっておりますが、ほかのお宅ではまだまだ13ミリがありますので、その辺は今後上下水道課だけではなくて、業者の意見なども聞きながら検討していきたいと思っておりますが、佐藤議員がおっしゃられました少しでも収入を上げるというような意味からは、非常に前向きに検討しなければならないことかなというふうに考えております。

○議長（中山五男） ここで暫時休憩いたします。

休憩 午後 2時06分

再開 午後 2時16分

○議長（中山五男） 休憩前に引続き再開いたします。

9番板橋邦夫議員。

○9番（板橋邦夫） ただいま上程中の平成25年度一般会計、特別会計につきまして質問したいと思います。

一般会計では総額111億7,300万円、前年度に対しまして0.6%減という縮減予算となっております。内容を見ますと、この予算の概要の中でも3ページにありますように、自主財源が32%、基金の取り崩しあるいは市債の発行等で68%の依存財源に頼らざるを得ないという中であって、行政サービスあるいは継続事業、そういうものにも取り組んでいかなければならない。極めて厳しい予算でないかと感じております。

これらの一般会計と特別会計が69億4,470万円、水道会計で8億7,700万円、トータル195億5,300万円ほどになっておりまして、対前年比3.1%の減。そういう観点に

立ちまして質問をしたいと思います。

まず、歳入のほうですね。11ページ、1款の市税の市民税、本年度予算額は10億5,700万円、前年度が10億3,300万円ということで、2,400万円の増を見込んでおります。御承知のように市民税は所得割とかあるいは資産割、均等割、そういうのが基礎になっていて、それによって課税されると思いますが、ふえるのは所得割がふえるのか、あるいは資産割がふえているのか、その辺をお尋ねしたいと思います。なお、2,400万円ふえた中身は後から出てきますように、前年度より滞納繰越金、前年度は600万円しか計上しなかったんですよ。ことしは1,000万円計上しておりますので400万円ほど去年より市民税の2,400万円の中には含まれている。差し引き2,000万円の増ですね。そういうことになっておりますので、それらの内容についてお聞きしたいと思います。

それから次に固定資産税でございますが、これは久保居議員のほうからも質問があつて、大体わかったんですが、4,980万円の減。先ほどいろいろ税務課長の説明のように、評価替えをして、烏山方式というか一般的な路線価方式にあわせてやったので、非常に地価が上がったところがかかなりあったというわけでございます。

その激変対策としまして、前年度2,700万円ほど減額したという答弁があつたようでございます。これは特に内容を見ますと、南那須地区がほとんど上がったということではないでしょうか。その辺をお伺いしたいと思います。

次に、滞納繰越金の予算計上ですね。市民税では1,030万円、先ほど申し上げましたように、昨年度は600万円とそのほかは30万円ありますから630万円ですね。400万円の増加を見込んでおります。固定資産税については1,000万円ですから、前年度と同じでございますが、これについては私も前から申し上げておりましたが、滞納繰越がかかなりあるので、積極的にもっと計上すべきであると言ってきたわけでございますが、そういうことか何ら知らないけど、ことしは400万円ふえて1,000万円になったということでございます。それらの計上にあたっての400万円ふえた要因、考え方についてお伺いします。

次に、12ページ、2款地方譲与税の自動車重量譲与税、これが前年度より900万円ほどふえております。これは計算基礎はいろいろ難しいようでございますが、道路の改良ですとか、舗装ですとか、そういうのが基本になって市町村へ戻ってくるというようでございますが、それらのふえた要因ですね。見込み台数がふえたのか、あるいはその国から来るのが自然にふえたのか、台数がふえたのか、その辺をお伺いしたいと思います。

次に関連しまして13ページの自動車取得税、これも前年度より500万円ほどふえております。これについても、これはやはり計算基礎があるようでございますが、その辺につきましてもその自動車がふえるのか、取得者がふえるのか、その辺をお聞きしたいと思います。

それから、12ページの6款で地方消費税交付金、これにつきましても渋井議員のほうから質問があって大体わかったんですが、現在、特別地方消費税というのは今なくなったのかどうか。これは以前あったような気がしたんですが、特別消費税、これはいつなくなったのか、ちょっと私も記憶がないものですかからお聞きしたいと思います。

次に、支出の45ページです、6款農林水産費、農林振興費新規就農総合支援事業600万円計上されております。この内容は青年就農給付金ということだと思いますが、これは何人ぐらい予定しているのか。また、どのような要件でどのような事業が該当していくのか。その辺をお伺いしたいと思います。

次に47ページ、農林振興費元気な森づくり推進事業費2,071万4,000円、この内容についてもお伺いします。

85ページの補助金、負担金で林業費、明るく安全な里山林整備事業補助金1,000万円が計上されておりますが、これは何カ所ぐらい整備するのか。また、大木須地区でもそのような話があったんですが、それらも入っているのかどうか。この事業の内容についてお伺いしたいと思います。

それから、予算概要の6ページですが、活力あるにぎわいのまちづくりですね。農林水産特産物開発事業としてフタバ食品共同研究開発事業が100万円ほど計上されております。これについては、このフタバ食品と連携して商品開発をしてきて、今回中山カボチャを使ったアイスクリームが完成しまして今、市販されております。また、市販は何カ所しかありませんが、これについてはどのような、また継続してやっていくのかどうか。それと、販売ですね。実は私も宇都宮のろまんちっく村へ行ったときに初めて買って食べたんですが、1個260円で大変味がよくて、いい商品が開発されて大変うれしく思っているわけでございます。

ただ、この原料になる中山カボチャは非常に減反が進んできて、原料対策、これが一番これから肝心だと思います。それとまだ2カ所か3カ所しか商品を取り扱っていませんから、これはいつごろから一般に市販されるか、スーパーとか。その辺をお聞きしたいと思います。

それと、道路維持費74ページ、建設工事ですが、野上台配水設備工事と野上下境線整備工事、野上台のほうはわかるんですが、野上下境線、今、突き当たりまでやって今年度で終わるわけですね。これがこの先になるのか。あるいは一番問題なのはあそこの杉林、あれは何とか改良にならないかどうか。これは地権者との問題があると思うんですが、あれが改良されれば非常にいいんですが、この辺の考え方をお聞きしたいと思います。

それと、最後に77ページで補助金負担金で、広島市平和記念式典派遣事業交付金、これが180万円ほど計上されているんですね。これは初めての事業かと思うんですが、これは毎年広島市で平和記念式典をやって、テレビやラジオ、新聞などで見て平和のありがたさを感じて

いるところでございますが、初めての事業だと思いますが、事業の趣旨、そしてその内容について、誰が出席してどういう内容なのか。その辺をお伺いして1回目の質問を終わります。

○議長（中山五男） 澤村税務課長。

○税務課長（澤村俊夫） それでは、最初の市民税、固定資産税関係の御質問にお答えしたいと思います。市民税が昨年度に比べまして2,400万円増ということで、そのふえた要因は何かということでお尋ねでございました。予算書11ページの一番上のところに市民税の記載がございますが、市民税の右側のほうにいきますと、個人市民税現年課税分と個人市民税滞納繰越分ということでそれぞれ記載されてございますが、個人市民税の現年課税分につきまして2,000万円増、そして、滞納繰越分につきまして400万円増、合わせまして昨年度と比べまして2,400万円増となっております。

この内容でございますが、現年課税分につきましては、税率及び課税客体数、課税される人数ですけれども、これは前年度と同じで見積もってございます。それぞれ6%と課税客体数は1万4,000人で見積もってございます。積算内訳といたしまして、均等割と所得割ということで積算しておりますけれども、均等割につきましては積算人数が同じでございますので前年度と同等ということで、所得割が2,000万円ふえたということでございます。なぜ2,000万円ほどふえたかといいますと、前年度の課税標準額、つまり総所得と山林所得を合わせた額でございますが、これが増加したために、それに見合う分の税額が増加したということで2,000万円増ということでございます。

次に、滞納繰越分の400万円増ですけれども、これは議員が前から御指摘のとおり、決算でたくさん入っているのにもう少し計上してはどうかというような御意見もございました。平成22年度、平成23年度当初予算は400万円を計上しておりましたけれども、決算では収入済額3,000万円を超えておりました。平成24年度は当初予算600万円を計上しておりますけれども、1月31日現在でやはり3,000万円を越えた収入がございます。これらを勘案しまして、滞納繰越分はなかなか定期的なといいますか、同じような金額は見込めるものではないんですけれども、ある程度見込めるということで今回1,000万円ということで400万円増額させていただいたというところでございます。

あと固定資産税の路線価方式ということで、南那須地区分が上がったのかというような御質問でございましたけれども、これにつきましては決して南那須地区分が上がったわけではございません。むしろ評価額全体としては下がってございます。下がっているために平成24年度分減額したり、平成25年度分さらに減額したりというところがございます、場所によって上がったり、場所によってはまた下がっているというところがございます、全体として見直しをしたということでございます。

以上です。

○議長（中山五男） 坂本総合政策課長。

○総合政策課長（坂本正一） それでは、私のほうから自動車重量譲与税、自動車取得税交付金の関係を御説明させていただきます。まず、自動車重量譲与税につきましては、国のほうで徴収いたします自動車重量税、この収入額の3分の1相当額が市町村のほうに配分される。その配分の根拠となりますのが、市道の延長と面積に応じて配分されるということでございます。年3回にわけて交付されるわけでございますが、こちらのほうも大もととなる数字については国のほうの数字でございますので、私どものほうでは過去の決算額から推計をいたして予算措置をしてございます。

ちなみに、平成22年度が1億914万7,000円、平成23年度が1億927万8,000円ということで、おおむね1億円台が確保できておりますけれども、安全率を見まして9,900万円という予算計上にさせていただいております。

それから、自動車取得税交付金でございますが、こちらは県税の収入でございますが、県税収入のうちの66.5%が市町村に交付されるものでございます。その根拠となりますのもやはり市道の延長面積をもとに配分されるということでございます。こちらは年3回、8月、12月、3月に交付されておりますけれども、やはり過去の決算を推計しながら予算額を計上しております。

平成22年度が4,585万7,000円、平成23年度の決算が3,475万2,000円ということでございますが、年々減少傾向にございます。今年度は今のところ、約3,500万円、平成25年度当初予算と同程度が見込まれるということで予算の計上をさせていただいております。

それから、地方消費税交付金の関係でございますが、特別消費税という制度については私もちょっと記憶はありますけれども、ただ、今の地方消費税交付金の制度、これが都道府県税として制度化されたのが平成9年の4月1日からということでございますので、以前はそういう形だったかもしれませんが、現在、平成9年からは現在の地方消費税交付金ということで消費税額の1%相当額が都道府県で徴収いたしまして、その2分の1が人口割、それから企業の従事者数の割合で案分されるということになっておりますので御理解をいただきたいと思っております。

以上です。

○議長（中山五男） 堀江農政課長。

○農政課長（堀江豊水） 予算書の45ページ、農業振興費の新規就農者の関係でございますが、600万円計上してございます。本年は年度途中だったものですから、1人当たり150万円、5年間ということなんですけれども、本年度は途中からなのでお二人の方、

75万円ずつ出している経費がございます。平成25年度につきましては、継続してそのお二方がまず150万円ずつですね、あとさらにお二人が今、予定されていまして、その方々は満額という形になりますので、150万円掛ける4人ということで、地区的には境地区がお二人、荒川地区がお一人、下江川地区でお一人というようなことで予定をしてございます。その交付金の計上でございます。

続きまして47ページの元気な森づくりにつきまして御質問をいただいておりますが、ここに計上していますのは予算書では2,071万4,000円となっております。先ほど議員御指摘のように、大木須地区の関係もございますが、それは特別枠というような感じで1,000万円、それから、残りの1,071万4,000円につきましては、地区内にかなり面積を考えてございます。整備型ということで20ヘクタール、整備型というのは若干ハードが入ってきます。それから管理型と申しまして、イノシシが来ないように里山の枝払い、草刈り、そういうもので105ヘクタールほど、それから、提案型ということで10ヘクタール見えますが、これが大木須の分の提案型ということで10町歩ほど。

したがって、大木須の部分につきましては地元でやっていただくという予定でございますが、そのほかの枝払い、里山の草刈りにつきましては、森林組合等に委託をしてイノシシ対策も兼ねて景観形成も含めて整備するという事業でございまして、2,000万円ほど計上してございます。

それから、概要のほうの6ページの農林水産物の開発事業で、主な内容としましてフタバ食品と明記してございますが、100万円のうちフタバ食品関連は50万円でございます。残りの50万円につきましては、例年やっております各団体の開発事業をやりたいという方々に事業計画書を提出していただきまして、事業費の2分の1程度を補助するという部分で50万円とってございまして、継続してやる団体もございます。今までには16団体ほどやっておりますが、平成25年度も続くというのが2団体ほどあります。そういうのを含めまして50万円の枠で現在、とっておりますのがこの農産物の100万円でございます。

大変御好評いただいた中山かぼちゃアイス関係ですが、現在は那須烏山市ではベイシアさん、山あげ会館、ふるさと民芸館で販売してございまして、先ほどお話があった道の駅とか、道の駅は茂木、高速道路で上河内サービスエリア下り、今後フタバ食品のほうではローソンの本部、セブンイレブンの本部等々も今交渉中というようなことでございまして、さらには市内にも置いていただくように努力してくれるということで申し合わせができております。とちまるショップのほうもフタバ食品のほうで企業努力をしていただいております。あと宇都宮駅の2階とかですね。

この間、市長の計らいで学校給食にも出して、子供たちは非常に喜んでいただいております。

そんな状況でございます。さらには、今回の50万円につきましては、次の段階で梨等も開発をとというようなフタバ食品との話し合いはしてございます。

さらに、御懸念いただいた栽培面積なんですけど、今14人の方で2町歩ほどなんです。ことしの場合色は黄色くなったり、傷があったりして市場に出せないものを1トン300キロを運んでつくっていただいたんですが、これらにつきましても数が確保できないと追加していきませんので、人気があるので売り切れちゃっても困っちゃうので、その辺は中山カボチャ部会と調整を今してまして、何とか同数ぐらいは確保したいということで話し合いは進めておりますので、何とか確保できるのかなというふうな予想でおります。

以上でございます。

○議長（中山五男） 福田都市建設課長。

○都市建設課長（福田光宏） 板橋議員の御質問の75ページの野上下境線の整備の箇所について御説明させていただきます。現在、平成24年度に下野大橋の下境側172.5メートル、工事を実施しております。その先、主要地方道那須黒羽茂木線側約200メートルを予定しております。

あと2点目の下野大橋の野上側の橋のたもとの整備、これはぜひとも私どもも整備したいという場所なんですけど、協力を得られない部分がありますので、皆さんのお力を借りて協力がいただければ、ぜひとも整備したいということで御理解願いたいと思います。

以上です。

○議長（中山五男） 栗野総務課長。

○総務課長（栗野育夫） 77ページ、広島市平和記念式典派遣事業交付金180万円でございますが、御指摘のとおり本年度新たに取り組む新規事業でございます。まず、事業の趣旨、目的についてでございますが、平成18年、平和を希求し、核兵器の廃絶や非核3原則の遵守などを求める自治体宣言を行った那須烏山市として、また、平成22年、広島長崎議定書に賛同署名しております署名市ですね、平和市町会議に加盟しております本市におきまして、核のない世界を求める広島平和記念式典に中学生を平和大使として派遣し、核のない平和な社会がいかに尊いかを学習体験するために予算化したものでございます。

事業の内容につきましては、本年度8月5日から8月7日まで2泊3日で中学生、また引率者を含めた20名を派遣いたしまして、平和記念式典参列、献花、灯籠流しへの参加、被曝体験講話学習、折り鶴の奉納などを現在のところ予定しております。

以上でございます。

○議長（中山五男） 9番板橋邦夫議員。

○9番（板橋邦夫） それでは、再質問ですが、市税につきましては大体了解をいたしまし

た。次に固定資産税ですね、4,980万円減額。これは激変緩和ではなく全体として下がっているということでいいんですね。全体的な見直しをしてこのように下がってきたという解釈で了解したいと思います。

次に、滞納繰越ですね。最初は400万円ですずっと来ていたんですが、昨年600万円、平成25年度は1,000万円ということで、だんだん上がってきたんですね、計上額が。大体今までの滞納繰越金の繰入率、結局収入未済額に対しまして平成23年度は5.8%ぐらいなんですよ。今までも大体5%台を繰り入れしていたんです。例えば14億円あれば700万円ぐらいとか、平成25年度、大体14億円ぐらいの収入未済額が出ると仮定すると、約1.4%の繰入率ということになるんですね。実際に相当入っているんですよ。平成22年度の収入未済額が14億1,100万円あったんですが、平成23年度に入ってきたのが8,100万円ほど、ですから、まだ繰入率を上げてもいいような気もするんですよ。

例えば1%上げると1,000万円ちょっとなんですから、かなりの事業もできるという。これはこの場合は内容が非常に悪い繰越金ですから、全額とか何十パーセントというわけにいかないんですが、一、二パーセント、ひとつ2パーセントぐらいもっていいんじゃないかというふうに考えているんですが、その辺の考え方を伺いたしたいと思います。

それから、自動車重量譲与税につきましては了解いたしました。

それと、自動車取得税交付金、これは今は支給率が変わったんですか。先ほど総合政策課長の答弁では、66.5%がこれが入るということなんです、前の基準は100分の95の70という率で入ってきたと思うんですが、その辺、ちょっともう1回伺いたしたいと思います。

それから、地方消費税交付金につきましても、平成9年からこのようなことで特別消費税はなくなったということで了解をいたしました。

次に、農林水産費、これは1人150万円で4人分ということでございます。ただ、補助金を出しっぱなしでなく、ぜひ1つの支援をしていただく。行政としても指導していただいて、成功するように御努力をお願いしたいと思います。これは答弁は結構です。

それから、林業振興費、これは大木須地区も1,000万円入っているということですから、これは大木須地区の古民家を利用した、これとは関係ないですね。そういうことで大木須は提案型で10ヘクタールをやるということでございますので、これまた行政のほうも一緒にタイアップして指導していただきたいと思います。

それから、里山林業整備資金、これも大体わかりました。

それと、建設工事の野上下境線、あそこ地権者は1件なんですよ。非常に大変だと思うんですが、ひとつ精力的に交渉して、私らもし行ければ一緒に行って、鈴木さんという方なん

ですが、協力したいと思うので、今、神長下境線立派にできましたので、あそこだけがちょっとね。通学路にもなっているのでカーブで狭くて危ないんですよ。あそこが抜ければ非常になめらかな通行ができるということを感じておりますので、ひとつ御努力をお願いします。

最後に広島市の平和記念式典、今、総務課長から細々と御説明いただきまして、8月5日から7日まで引率者を含めて20名、中学生が参加する。非常に意義の深い事業だと思っておりますが、中学生の選び方、これはどういう形で選ぶのか。その点だけお伺いしたいと思います。

○議長（中山五男） 澤村税務課長。

○税務課長（澤村俊夫） 滞納繰越の予算の計上の仕方について御質問いただきました。今回、昨年度と比べて600万円を400万円アップして1,000万円にしたわけですが、先ほどおっしゃられたように滞納繰越額全体としては14億円、昨年度繰り越したわけですが、その何パーセントを当初予算に計上するかということにつきましては、非常に実際に入るか入らないかというのはなかなか困難なところでございますので、当面ある程度確実なところということで1,000万円を計上させていただきまして、今回、3月の補正で固定資産税の繰り越しにつきましては、2,800万円ほど滞納繰越分を増額させていただきましたが、平成25年度もそのような考え方でいきたいと思っております。

以上です。

○議長（中山五男） 坂本総合政策課長。

○総合政策課長（坂本正一） ただいま自動車取得税交付金の交付率のお話でございました。これにつきましては、議員おっしゃるとおり、自動車取得税の総額に95%を掛けまして最初の10分の7相当額を交付するということでありまして、95%の10分の7ということで66.5%ということでございます。

以上です。

○議長（中山五男） 栗野総務課長。

○総務課長（栗野育夫） 今回の新規事業を行うかどうかにあたりましては、中学生の推薦というか選定がありますので、あらかじめ教育長を交えまして学校教育課と話し合いまして、夏休み期間中、生徒にとっては大変忙しい時期であるんですけども、中学生の選定につきましては学校教育課のほうで御選定いただきまして、総務課なり学校教育課が引率するという形をとりたいと思っております。

○議長（中山五男） 9番板橋邦夫議員。

○9番（板橋邦夫） 最後に1点だけ、アイスクリームのことなんですが、私、勉強不足でベisia、山あげ会館とかで売っているというのはわからなかったんですよ。そのほか茂木の道の駅とか上河内のサービスエリア、ほうぼうで取り扱ってきているようでございますので、

これは非常に評判がいいのでこれから売れる商品だと思うんですね。

だけど、今の話を聞くと、今、原料の確保が一番問題になると思うんですね。14人で2町歩しかつくっていないということですから、これがどんどんどんどん売れていくと、とてもとても原料が足りなくなる可能性があるんですね。これをまず、原料の確保、それはつくってもらい以外ないですから、中山カボチャ部会と十分協議して、増反をして原料の確保にあたっていただきたい。せっかく売れてきたのに原料がなくて消費ができない。これでは非常に問題になりますので、その辺、1回だけ聞いて終わりたいと思います。

○議長（中山五男） 堀江農政課長。

○農政課長（堀江豊水） 部会長などにお話を聞きますと、非常にやっかいなカボチャなんだということでございまして、さらには高齢化が進んでいまして、収穫にも労働力も大変だということですが、十分その辺は調整してございますので、何とか確保したいというふうに考えています。

○議長（中山五男） 10番水上正治議員。

○10番（水上正治） 私は簡単なものを2点ほどお伺いしていきたいと思います。

1つは、37ページの老人の家関係なんですけど、これ今後どうするかというテーブルに乗ったかなと思うんですけども、今、どういうふうな状況になっているかをお聞きしたいと思います。

それともう一つは、ことしまた、商品券発行支援事業というのをやりますけれども、これが今の段階ではどんな計画でやるのか。その2点をお伺いしたいと思っています。

○議長（中山五男） 網野健康福祉課長。

○健康福祉課長（網野 榮） 老人憩の家運営費の件でございます。老人憩の家につきましては、昭和48年に建築された建物でございまして、議員御指摘のとおり非常に老朽化している施設でございます。現在のところ、昨年の実績ですと139団体、3,176人の利用実績がございます。現状としましては、施設のほうは相当老朽化しているということで、修繕を重ねながら何とか使っているということでございます。

その利用者の内容等については地域の御老人の方、カラオケ愛好会、山あげ祭の準備の関係などなどが使っている状況でございます。施設としてはもう限界に近いのかなという感じはしております。

以上でございます。

○議長（中山五男） 高橋商工観光課長。

○商工観光課長（高橋 博） それではお答えしたいと思います。まず、商品券のことなんですけど、これらにつきましては、今年度、現在、商工会のほうから強い要望がありまして、ぜ

ひ今年度やりたい。市のほうでも協力願いたいということで今年度、プレミアム分1,000万円を予算計上したところでございます、この発行にあたりましては、今回、この議会が議決されれば商工会のほうでいつ発行するかということで検討することになっておりますが、多分予定では7月に発行予定かなと考えております。

あと、参考に申しますと、前回、平成23年、前回までで第3弾になりますが、今回で第4弾目ということでございます。前回の実績を申し上げますと、前は平成23年7月2日、3日に発行してございまして、1,213人が商品券を購入しているところでございます。

また、参加商店につきましては、商工会員ということでございまして256店舗で、烏山地区が174店舗、南那須地区が82店舗という実績でございます。

以上でございます。

○議長（中山五男） 10番水上正治議員。

○10番（水上正治） 再質問したいと思うんですが、最初の網野課長が答弁した老人憩の家ですけれども、確かに40年ですよ。個人の施設じゃなくて、公に人を集める施設ということになれば、確かに限界ですよ。だから、その辺もひとつ例によって検討委員会をつくるかどうかわかりませんが、ちょっと将来的なものも、もう本当に決断する時期にもなっていますので、ひとつ要望としてお願いしておきたいと思います。

それと、今の1,000万円、それは商工会の要望ということのようですよけれども、7月ということはお盆の買い物にあわせるのかな。その辺もあります。それで、ただ、発行したその後の前回、平成23年は議会なんかでもかなり一般質問等でいろいろな指摘もありましたので、まるっきり商工会ということじゃなくて、こんな意見もあったよとか、そういう提言も少し必要なのかなという思いはしていますので、それと、1人の人が大量に5%のプレミアムがついたものを買うということではなくて、大勢の人に市内で買い物意識を高めるということも必要かなというふうに思いますので、ひとつそこら辺はやはりリーダーシップも多少はとる必要があるんじゃないかなと思いますので、その辺の課長の考え方をお聞きしたいなと思っています。

○議長（中山五男） 高橋商工観光課長。

○商工観光課長（高橋 博） ただいまの提言につきましては、商工会のほうにお話をしたいと思っております。また、今までの購入実績を見ますと、これは商品券は1,000円で1万単位ということでございますよね。それで、大体平均で前は1人8万2,000円を購入しております。

年代別に見ますと、やはり一番多いのは40代が金額的には多いです。ただ、パーセント的には50代が全体の25%、あと60代の方が26%、この50代、60代で購入者が約半分

を占めているという状況でございますが、ただし、10代から70代まで幅広く購入は行っているということでございます。

○議長（中山五男） 10番水上正治議員。

○10番（水上正治） 具体的にはそれはこれからの問題になりますけれども、対象の店がどれかということによって人気の度合いも違いますので、その辺をじっくりと御相談して決めてください。これは答弁はいいですから、よろしくお願いします。

以上です。

○議長（中山五男） 11番平山 進議員。

○11番（平山 進） 3点ほどお願いします。

33ページ、先日も選挙費について話をしましたけれども、あのときも衆議院の予算が1,916万5,000円つけたんですね。でも、実際執行された額というのは1,549万円ですか、だからマイナス約400万円ぐらいの差があったんですね。

ということは、この参議院の予算を見ると、またもとに戻っているんですね。これ、民間でははっきり言って考えられないんですよ。なぜかというと、民間の場合は目標を設定する。そうしたらそれから下げるよう努力するんですよ。ということは、これ、去年の衆議院選挙のときには1,500万円の実績ができたわけですから、参議院のときにはやはりそれを上限ぐらいに持ってきて設定するべきだと思うんですね。そうでないと、何の努力もないということなんですよ。

もし、万が一、何かあったら仕方がないから毎年のように1,900万円の予算を組もうやと。もしそういうふうな感覚でこの予算をつくり上げられているのだとすれば、その職員の努力というものは何も生まれていないということになっちゃうんですね。これは一例ですよ。こういったものの予算下に、なぜこの実績が反映されないのかということが1つ。

もう一つは、55ページ、遠距離通学支援事業、これが去年に比べて107万5,000円マイナスになっているんですね。これは本当に生徒数が減ってこういう数字になっているのか。また、別な原因があって減額されているのか聞きたいと思います。

それと、65ページですね。これもちょっとおかしな話なんですね。65ページで職員数が249名ですよ。今年度は240名ということで9名減っているわけです。それに対してその下の住居費、これはプラスになっているんですよ。職員数が減ってきているのになぜ住居費が上がるんですか。この3点です。

○議長（中山五男） 大野学校教育課長。

○学校教育課長（大野治樹） それでは、遠距離通学の助成についてお答えしたいと思います。

こちらは平山議員御指摘のように、児童生徒数の減少等によりますものと、あと、七合小学校のコミュニティバスの利用が平成23年9月からですから、去年は関係ないので、児童生徒数の減少によるものと考えられます。

○議長（中山五男） 粟野総務課長。

○総務課長（栗野育夫） 1点目の33ページ選挙費の関係でございます。補正の段階におきましても一部説明いたしました、選挙費につきましては基準額をもとに算定しております。したがって、初日の議会におきまして議員御指摘のとおり、衆議院議員選挙費は減額しております。というのは、実際に使う気だったらば使えたんです。

なぜそういう事態になってしまったかといいますと、知事選終了後、解散等がありまして、当市におきましてはポスター掲示場等を再利用しようということで、基本的に撤去しなかったんですね。そこら辺の事業費が当初200万円かかっていたところが五、六十万円で済んでしまったんですね。

そういうことがありまして、国が定めている選挙の基準額よりも低めに執行できた。その安くなった部分を、あらかじめ何かパソコンを買ったりとかいろいろなものを買ってれば、初日の補正のように減額することはなかったんですけども、補正の際も申し上げたとおり、間髪を入れず会計検査院が参りまして、選挙費を全部チェックされているんですね。

それで、投票日以後に、例えば記載台を買うとか、紙を買うとか、自動交付機を買うということは、投票が終わったのに何でこんなのが必要なのと指摘されたものですから、財政と相談いたしまして無理に使うことなく、返還、返したという形をとったので、御指摘のように400万円近くの減額になったわけでございます。

本年度執行されます参議院総選挙につきましては、事前に適正に先にどんどん使って執行して、また、補正等において減額がないように心がけて努めてまいりたいと思っております。

2点目の65ページの住居費でございます。これらにつきましては若干の要因がありまして、65ページはここにありますように一般会計分の人件費なんですね。職員定数のときにも言ったように、今回、9名の方、いわゆる22名が退職いたしまして13名が新規採用でございますので、たまたま偶然9人という形でなったわけでございますが、住居手当につきましては、昔は新築したり持ち家を持っていると定額で何千円とかそういう形で支給されたんですけども、現在はアパート代、借家しか住居費は支給しておりません。

なぜなったかというのは詳しく調べてみないとわからないんですけども、やはり若い人が家を出てアパート生活する。そういう方が多くなったのかなというふうに感じております。

以上でございます。

○議長（中山五男） 11番平山 進議員。

○11番（平山 進） 選挙費というのはほとんど毎年やっているわけですよ。そういったことを繰り返すということは逆に言えば職務怠慢ですよ。これは反省してもらいたいと思います。

それと、今、言われたアパートには出るんですか。ということは若い人がふえてきているということなんですか。

○議長（中山五男） 栗野総務課長。

○総務課長（栗野育夫） 結婚してやはり自宅には入らないで高根沢とか、やはり新婚当初はアパート、マンションで家賃の何パーセントまで出ますので、そういう核家族化が進んでいるのかなと推察いたします。

○議長（中山五男） 11番平山 進議員。

○11番（平山 進） では、ふえた原因、後で結構ですので、なぜふえたのか、明細いただければ。

以上です。

○議長（中山五男） ここで暫時休憩いたします。

休憩 午後 3時15分

再開 午後 3時25分

○議長（中山五男） 休憩前に引続き再開いたします。

13番小森幸雄議員。

○13番（小森幸雄） 同僚議員が随分聞いてくれたので、本当に残りはあまりありませんが、二、三点お聞きしたいと思います。

まず、68ページ、定年退職及び勸奨退職にかかわる退職手当の件であります。これは定年、満期除隊で定年になる人、勸奨で退職をされる方、二通りあるんですが、支給率は変わらないんでしょうかという質問です。

また、ついでに聞きますが、最初の日に、今年度でやめる職員の名簿と新しく採用した職員の名簿を議員のデスクに置いていただきました。その中で、新しく採用した職員9人が一般職で4人が保育士及び幼稚園なんですが、この24人の職員の採用試験の要項を見ますと、一般事務のAとBとCとありますよね。その区分、一般事務でAが何人いてBが何人だったのか。Cが何人だったのか。保育園及び幼稚園のほうはこれはいいです。この一般のほうだけ。

どこの子供らだか、どこの地区だかも私たち全くわかりませんが、この特別選考枠、いわゆるスポーツ、芸術等で優秀な子供が入っているかもしれませんから、その辺、ちょっとことしからこれ、初めての採用の枠組みだと思うので、ちょっと聞きたいと思います。ついでに申

しわけありません。

それと、78ページ、さくら市の自家用有償バス運行の経費なんですけど、これ、片岡線でしょう。それが3月末でたしか終わりだと聞いたんですが、これ、何で半分だけ平成25年度は予算があるのか、ちょっと理解ができません。

90ページ、文化財関係であります。補助金の中、文化財の前年度30万円、今年度21万4,000円という補助金があります。これは3割近く減ったんですが、実績を考慮してマイナスにしたのか。これ、文化協会だな。そうですね。

それと同じページで重要文化財等の保存事業の補助金であります。前年度が37万3,000円、今度は大きく218万7,000円、この差ですね。

もう1点、2月の広報紙で那須烏山市のイメージキャラクターが決まりましたよ。こういう記事が一番最後にありました。いいのができたなと思って、ずっと読んでいたら、着ぐるみを今つくっているんですよ。年度内にはできますよ。着ぐるみは幾らぐらいかかるんだか、まず聞きたいなと思います。

そうすると、この委員会の中で、多分この選考委員会は中山議長が委員長なんですね。そういう中で、この1個でなく3個つくってしまう話が出たとかという話を聞くんですが、要は最優秀のなすからちゃんがまず1つでしょう。優秀賞というのが2つあって、からのすけとからのすけ君というのがあるんだね。それは当初平成24年度の予算でまずは、なすからちゃんをつくるんだろうと思います、私は。で、残りの2つは平成25年度の予算でもつくるのかなと思って予算書を見ても、どこ見ても出てこないんだが、これはどこかにあるのか、それを教えてください。

○議長（中山五男） 栗野総務課長。

○総務課長（栗野育夫） まず、1点目の退職手当にかかる支給率でございます。定年退職、60歳を過ぎた者でございます。勸奨退職につきましては、一定要件を満たせば60歳まで勤めたとしてカウントしますので、全く支給率は変わりません。なお、68ページの最高限度55.86、備考にありますように平成25年度末、平成26年3月31日でございますので、ことし退職される方につきましては、この数字ではございません。59.28と。この数字は55.86は、本年4月1日からの改定された率になるということで御理解いただきたいと思っております。

次に、2点目の新採用のところで、3つの区分で本年度新採用職員の採用試験を行いました。Aというのは一般職員ですね。その方が6名でございます。B、特別枠、一芸とも申しますか、文化、スポーツに秀でた方を対象といたしました一般行政職Bというのは3名の合格者でございます。Cは保育職でございます。その方は4名でございます。住所等につきましては、学生

でございますのでまだ現住所が定まっていないこともありまして、そういう表記にさせていただきました。

以上でございます。

○議長（中山五男） 清水危機管理室長。

○危機管理室長（清水敏夫） 78ページのさくら市自家用有償バス運行経費負担金、平成25年度になぜ計上があるかという件ですが、バスの県の補助金が出ます。このバスの補助金の会計年度というのが10月1日から翌年の9月末までということで半年ずれております。ですので、その昨年の10月1日から3月31日までの運行分については、ことしの10月になって精算をするということになります。そういうことで半年分の負担金を平成25年度に計上しております。

以上です。

○議長（中山五男） 川堀生涯学習課長。

○生涯学習課長（川堀文玉） ただいま予算書90ページ的那須烏山市文化協会補助金の件と重要文化財等保存事業の補助金について御質問をいただきました。まず、文化協会関係でございます。現在、市の補助交付要項で事業費に対して補助をするということで、一応最大2分の1ということで事業等を精査いたしまして、やはりこの金額になったということでございますので、御理解いただければと思います。

また、国重要文化財等保存事業費補助金でございます。こちらは山あげ祭関係、山あげ道具類の修繕等にかかる補助事業でございます。平成24年度予算の37万8,000円につきましては、鍛冶町の道具類の修繕でございます。本年度の予算を一応要求しておりますものは、元田町の修繕にかかる費用でございます。国が2分の1、県と市と事業者が残りの2分の1の3分の1ということで、それぞれ負担することになっておりまして、やはり事業量の違いによりまして額が変わってくるわけでございます。

以上です。

○議長（中山五男） 坂本総合政策課長。

○総合政策課長（坂本正一） イメージキャラクターの件でお尋ねいただきました。御案内のように、最優秀賞1点、優秀賞2点ということで、いずれも非常に甲乙つけがたいということで最終選考の際には、かなり選考委員の皆さんに御苦勞をいただきました。

選考いただいた結果に基づいて順位は決まったわけですが、委員の中からもぜひ優秀賞もすぐれた作品であるので何とか活用いただきたいというような御意見もいただきました。まあ、事務局といたしまして、できるだけそういったのを活用していきましょう。あわせて、本市のほうはイメージキャラクター、県内でも作成が非常に後発組でございましたので、1体で

PRするよりは3体でアピールしていったほうがいだろうという判断でございまして、3体を作成することで予算の計上をさせていただいたわけなんですけど、当初1体60万円程度かかる予定だったんですが、いろいろ事業者との協議で3体まとめてつくるということで1体三十五、六万円程度でつくれる可能性が出てまいりました。

ということで、今回の補正予算で不足分36万9,000円を補正をさせていただいて、今月中に3体を作成するというところで準備を進めております。

○議長（中山五男） 13番小森幸雄議員。

○13番（小森幸雄） 退職手当の関係は了解します。さくらの関係も大丈夫ですね。文化財関係も了解しました。残りは2つです。

まず、新職員の採用の中でAが6、Bが3という答弁がありましたけど、Bの3名の中の1人、1人、1人について、そのスポーツで何がよくて職員採用の値に入ってきたのか。いろいろあると思うんですね、卓球がよかったとか、駆け足が速かった、棒高跳びが優秀だとか、何かがあったはずだから、いわゆる選定基準だけ教えてください。そうしますと、やはり採用された若い職員が一生懸命やってくれば、私がおととい一般質問した国体の強化のためにも大きく貢献できる職員の採用ではないかなと思って、私は大賛成します。継続でやはり次の年も当然考えていただけるものと思っております。

今、イメージキャラクターの話が出まして、1体三十五、六万円のできる。3体つくりたいんだ。果たして3つでいいのかというのが私の意見です。やはり1つに絞って、それを大いにあれして、とちまる君だか、栃木県のね、あれだって1つでやっているんだし、3つもあつてばらばらで勝手にやったら、これはイメージキャラクターからちょっとダメージキャラクターになっちゃうのではないかなと心配するんだけど、どうでしょうか、これ。もう1回考えていただきたい。お金に余裕があれば構わないですよ、だけど、こういうところで節約を少し、小さい金だってやはり節約したんだよというのが行政ではないですか。

年度内に完成するんですが、初デビューはいつを目標にしておりますか。これだけ聞きます。

○議長（中山五男） 栗野総務課長。

○総務課長（栗野育夫） 一般職Bの選考基準につきましては、一般教養試験は一般職、行政職と同じ問題の内容で執り行っております。Bにつきましては、試験結果プラス内部に選考基準を設けまして、いわゆるオリンピックだと例えば10点とか、国体だと8点とか、県の大会での優勝者は5点とか、そういう基準を設けまして加点方式で一般教養試験と、今言いました加点方式の点数を加えまして一次試験の合格者を決定しております。

なお、その中から二次試験におきまして三役によりまして面接等を行いまして、さらに加点して結果を出す。今後の問題でございまして、非常に好評でございますので、市長とも相談い

たしまして、できる限り来年もこのような2つの方式で試験採用を行ってまいりたいと考えております。

その内容ですね。野球が高校生でありまして1名です。もう1人が陸上の長距離ですね、箱根駅伝を走っております。あと1人は文化のほうで女性の方なんですけれども1名。3名の合格者を出しております。失礼いたしました。文化についてはデザインだと思います。

○議長（中山五男） 坂本総合政策課長。

○総合政策課長（坂本正一） イメージキャラクターにつきましては、いろいろ御意見をいただきましてありがとうございました。基本的に今回のイメージキャラクターにつきましては、那須烏山市が城下町というイメージを強く出しているということで、お姫様とそれに付随する2人の武士ということで物語性をつくった上でPRしていきましょうという内部の検討でございます。

お披露目の時期につきましては、表彰等の関係もございますので、日程等については今後詰めさせていただきたいと思いますが、4月の早い時期には進めたいと思っております。

○議長（中山五男） 13番小森幸雄議員。

○13番（小森幸雄） 烏山城にちなんでのお姫様とか何とかとってそういうふうには理由をつければ何ぼでも正当性は出てくるんですけど、市長、これ1つに絞って集中してやるというのがいいんじゃないかな。あと2つプラスして交代交代で出すのか、3体一緒にやるのか。これはちょっと考えたほうが私はいいいような気がするので……。

以上で終わります。

○議長（中山五男） 12番佐藤雄次郎議員。

○12番（佐藤雄次郎） 中座をいたしまして大変失礼しました。同僚議員から大分指摘があったと思うので、2点ほど教育関係でお聞きしたいと思えます。

まず、20ページの歳入、一般会計ですね。歳入の県支出金、不登校児童の87万1,000円の関係と、歳出では55ページの10款教育費ですね。支出の項目、教育費でございまして、これは県の補助金87万1,000円、そのほかこれ、トータルで五百何万円になっていましたかね。その内訳ですけれども、一般財源のほかにその他というふうにあります、財源内訳の説明とその事業の内容をまずお聞きしたいと思えます。

それともう一つは、ちょっと飛びますけれども、103ページの負担金関係で、ちょうど103ページの中ほどに、メノモニー市への中学生の派遣200万円があろうかと思えます。それで、これは例年、今回で第7回か第8回になるんでしょうか、それが終わって帰国されて、反省会というか、報告会をやっていると思えますけれども、そのときの実施されたときの参加された人たちのどういう報告、国際交流を果たしてきたという、気持ちがよく出たような報告

があったのかどうか。1人1人の、全部じゃなくて結構ですから、こういう報告があったよという力強いものがあればお聞きしたいと思います。

それと、ちょっと横へそれますが、先ほどの小森幸雄議員からの高校野球で入ったというけれども、どこの高校でしたか。余計なことかもしれないがお答えできれば。

以上です。

○議長（中山五男） 大野学校教育課長。

○学校教育課長（大野治樹） それでは、学校教育課関係2点についてお答えしたいと思います。

まず、20ページの歳入の87万1,000円についての歳出の御指摘でございますが、議員御指摘のとおり55ページにあります、ここで言いますと適応指導教室というところでの支出500万円の支出となっております。

その財源内訳でございますが、こちらは適応指導教室ということで宮原にあるレインボーハウスの運営費ということで、そこにおります指導員の人件費とその運営費を計上した予算計上でございます。

こちらの県費の87万1,000円については、その指導員の人件費に充ててございます。そのほか、その他の経費でございますが、176万円については那珂川町から負担金ということで、両町で運営しているレインボーハウスでありますので、那珂川町分の負担金ということで、その他のほう入ってございます。

それと残りの1万円については雇用保険ということで、指導員の方から保険料をいただいた1万円となっております。以上で1点目の御質問とさせていただきます。

2点目のメノモニーの報告会の様子でございますが、こちらはまず、出発前にそれぞれ生徒がメノモニーに行って自分は海外派遣でこういう課題に取り組んできたいということで、それぞれ課題を1人1人持って出発してございます。

今度は向こうのメノモニーに着いて、それぞれホームステイ先あるいは学校で、自分が持っていった課題についてそれぞれ取り組んで、その成果について、自分なりにその課題に取り組んだものについて今度帰国後に、自分が掲げた課題と自分がメノモニーで取り組んだ成果について、それぞれお一人ずつ御発表いただいたものでございます。

済みません、1人1人の課題の取り組みについてちょっと御紹介できればいいんですが、なかなか記憶のほう薄いものになってしまっていて御紹介できないのが残念なんですが、非常にみんな、その課題に取り組んだことについて立派に報告されております。その報告会には、市長、議長、教育委員の皆さん、国際交流協会の会員の皆様の御来賓を得て、そのほかに保護者の出席のもと、お一人、お一人、皆さんを前にして正々堂々と発表されて、非常に頼もしく思った

ところでございます。

○議長（中山五男） 栗野総務課長。

○総務課長（栗野育夫） 非常にとまどっております。個人の経歴でもありまして、また、個人情報にかかることでございますので、県内の軟式野球の強豪校出身だということで御理解いただきたいと思っております。

○12番（佐藤雄次郎） 了解しました。

○議長（中山五男） 14番滝田志孝議員。

○14番（滝田志孝） それでは、何点か質問させていただきます。

まず最初に、この予算概要からちょっと聞きたいんですけども、2番の定住促進対策、これは非常にいいことかなと思うんですが、その次の3番の雇用対策の充実、企業誘致の推進活動、これも決して悪いとは思っていませんけれども、ずっとこれもう10年以上そういうものを書いて、現実になかなかこう企業誘致は難しいのかなと。そういうふうには私は思っているんですね。

そういう中で、現実にはある程度それと含めて、今、芳賀の工業団地、宇都宮、そして今度はさくら市にホンダができるということを考えてときには、この那須烏山市をベッドタウンとしては考えられないかどうか。

ということは、市としまして土地の開発、そしてそれを安く提供しても、企業の誘致と同じように何年かを、ちょっといろいろ問題があるかもしれませんが、税金を免除するとか、固定資産税を免除するとか、そういう形で、それでも水道料とか所得税とか、そういうのを見れば何年かの間には元はとれるという言い方もおかしいんですけど、人口がふえればもちろん水道料も上がるし、その他付随するものも上がってくると思うんですね。

そういう考えでみると、この企業誘致、企業誘致、どうも旧烏山あたりは開発すると言っても、あまり平らなところがない。または、この前、隣の議員が言われましたように、興野のほうもなかなかうまくいかなかった。やはり東北自動車道、そして常磐自動車道の間といえども、10分ぐらいで来るのなら中間で非常にいい場所なんです。ところが、ちょっと時間がかかり過ぎる。そして、大変失礼ですけど、宇都宮からも時間もかかり過ぎる。やはり県庁所在地から15キロぐらいじゃないと、なかなか用地というか、そういう企業は出てこない、今まで見ているとそんな感じなんです。

ですから、そう考えると、今後の考え方として、そういうベッドタウン的な考え方でもできるかどうか。まず、それを1点お伺いします。

その次に、これは確認みたいなものなんですけど、31ページに自衛官の募集、昔は自衛隊はどこでも、どうですか、自衛隊に入りませんかと言われたんですが、今はなかなか自衛隊も入

れない。入れないというか試験が受からない。そういう中で那須烏山市で自衛隊の募集をかけて何人ぐらい応募者がいるのか。その中で毎年何人ぐらいうかっているのか。自衛隊は中学卒業からとっていますよね。これは少年自衛隊とかということで中学生、高校生、大学生、もちろんとっていると思うんですが、そういう部分が那須烏山市に現実に応募している方がいるのかどうか。そして、それが今までここ二、三年でどのくらいいるのかをまずお伺いをいたします。

それとこれは確認です。49ページ、長峰ビジターセンター、これは管理費は県から出ているわけですよね。今でも出ていると思うんですが、そのところはどうなっているのか。周りもうまるっきりなくなっちゃったようで、ちょっとビジターセンターだけが残って、あそこは立派な建物なんですね。エレベーターまでついていて、その経費を見ても、市に移管されても非常に困る。つくったときはいいんですが、利用価値があるんでしょうけれども、利用はあまりしていない。そういうことを考えたときには、今現状、そしてもう一つ言いますと、今後の考え方、そこら辺をお伺いをするものであります。よろしくお願ひいたします。

○議長（中山五男） 國井副市長。

○副市長（國井 豊） それでは、1点目の企業誘致にかかります那須烏山市をベッドタウン化したらいいのではないかという御意見でございますが、今日までも企業誘致をまずは第一に、そういう中で商工観光課の中に企業誘致の係を設け、データベース等を利用して、企業のピックアップ等を行いながら、企業の訪問等を行ってまいりました。

ただ、先ほど言われましたようなそういう地形的な条件もございまして、また、受け入れる側の基盤整備といいますか、工業団地と名のつくものがないわけでありまして、かと言って早急に団地を造成して企業誘致というわけにはいきませんので、そういうのも視野に入れながらですが、現在ございます公共用地の跡地ですね。そういうものを活用しながら、企業誘致に努めてまいりたいというふうに思っておりますし、あわせて企業訪問をいたしましたときに、ぜひ本市に住んでいただけないかと。先ほど商工観光課長のほうからも説明がございましたが、定住促進、それから雇用対策関係の優遇策も新たに設けたわけでございますので、これから平成25年度に向けて、積極的に取り組んでまいりたいというふうに考えております。

○議長（中山五男） 清水危機管理室長。

○危機管理室長（清水敏夫） 本市における自衛官の採用状況ですが、平成23年度は13人応募があつて、1名です。今年度については応募者数はちょっと不明ですが、実はあした入隊者の激励会がありまして、3名ということで、この学歴等については聞いてはおりませんし、また、そういう発表はちょっとできないんですが、そのような状況で、ただ、大田原の自衛隊の事務所の方の話ですと、高校卒業で地元高校あたりですとちょっと厳しいということ

を言われております。

それと、中学生について、積極的に試験を受けるようにということで進めているもようで、かなり受けている方が、那須烏山市とか、那珂川町とかそこら辺でちょっと聞く話なんですけどね、受けている方が多いようです。ただ、それは高校入試の前段のチャレンジ、予備試験だぐらいの感じで受けてくれというようなことでも、話をしている。そんなような状況であります。

○議長（中山五男） 高橋商工観光課長。

○商工観光課長（高橋 博） それでは、私のほうからビジターセンター関係の質問に対してお答えしたいと思います。

現在、このビジターセンターにつきましては、管理を国見自治会のほうにお願いしまして、その維持費の3分の1程度、これらにつきましては県のほうから補助金がまいっております、管理をしているところではございますが、これらの施設につきましては、県のほうは市のほうにできれば移譲したいという意向を持っております。ただ、市のほうも、このセンターは天体関係で専門的な方が利用しているということでございまして、年々これはもう減っております。

というのは、現在はわらび荘は廃止ということで解体するということで、年々あそこに来る方も少なくなっております。そういうことで、市としましても、いろいろ現在、県と協議しまして、私どもは県のほうにできれば返したいという考えで思っております。

非常に管理費も100万円以上かかりまして、県のほうから20万円ちょっとしか来ておりません。そういうことで、今、申し上げましたように、また引き続き県のほうと協議してまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（中山五男） 14番滝田志孝議員。

○14番（滝田志孝） 今、第1回目の答弁をいただいたんですが、ここの那須烏山市、特にベッドタウンの話なんですけれども、1番としては企業誘致を考えていく。それはそれで決して反対をするものでもないですし、悪いことでもないと思っております。

しかしながら、ずっと同じことを十何年とやっていて、林テレンプさんは来てくれた。しかし、なかなかそれに準ずるような会社、または少し小さくてもしっかりとした本社機能を持っている会社がなかなか出てこないということは、やはり地理的なものがあると思っておりますね。

しかしながら、ベッドタウンであれば、きれいな街並みづくり、要はきちんとした区画整理をして、それなりのものを整備をすれば、若い人はそこに住む。宇都宮のなつぼ台なんかそうですよ。今はちょっと古くなっちゃいましたけど、あそこなんかからきれいな街並みづくりをし

たものですから、結構応募者数が多くて抽選をやったというぐらいの話ですから、今はごちゃごちゃしたところには若い人は住まないんですよ。あまり件数が多いと、50戸とか何とかという住まないですね。10戸とかそういう細かい、件数が少ないほうが住みやすいという部分もあるようですから、そこら辺も場所を決めて、地域を決めて、旧南那須のどこからはまずやっていこうとか、旧烏山のどこからやっていこうとか、そういうのを考えると、今私が話しているのは大体ここから30分圏内なんですね。

統計的に見ますと、通勤距離というのは大体15分から30分以内。これが一番いいところだと、こういうふうに言われているんですね。ちょっと今はわかりませんが、昔はそういうふうに使われていた。

あまり3分、5分だとちょっと寄り道もできない、買い物もできない。ところが、30分以上超えるとちょっと遠い。女性なんかは特にそうなんですね。そうすると、やはり15分から30分、そうするとちょうどそこら辺ぐらいがそういう圏内に入ってくるのかなと。ですから、そこら辺も考えていただければいいかなものかと。こういう話をしているわけでありまして、ぜひとも市としても考えていただきたいなと思っております。

次の自衛官の募集の件なんですが、高校入試の前段で受けようなんて言っても、そこら辺は今最終的に教育長のいる前でこういう話もなんですけど、最終的に拾ってくれるのは県立高校なんですよ。私立高校は拾ってくれないんですよ、もう。要するに生き残りをかけているわけですから、進学率が何パーセントなんですよ。彼らは彼らでもう高校は進学率が何パーセント、大学はもういい大学じゃないんですよ。就職率のいい学校に入りたいんですよ。すばらしい大学、昔みたく名が通った大学よりは、就職率のいい大学に入りたい。親も子供もそういう時代ですから、そういう感覚なんですよ。

ですから、そんなに簡単にはいかない。それで、肝試しとか試験の前段とか、ちょっと親が感覚が違うのではないかなと思っております。ぜひともその中でも自衛官に1人入った、今度3人の方がどうなるかわかりませんが、激励会みたいなのをやってくれるとかということで頑張っていたきたいなと思っております。

そこら辺のところは、那須烏山市としてはどういうふうに、大田原で募集をかけているようですけども、どういう対応をしているのか。また、どういう応援ができるのか。そこら辺のところをお伺いをするものであります。

そして、長峰ビジターセンター、返したい。しかし、県もきつとお困りでしょうから、要らないよと。何とか面倒見てくれと。こういう話になってくるのかと思うんですが、そこら辺のところはよく詰めて、逆を言えば、マイナスの話じゃなくて、何か有効に使える方法はないのか。そういうことが市としても考えられるのか、考えられないのか。ちょっとそこに座ってい

る方々は素晴らしい方々ばかりですから、よく検討していただいて有効利用を考えていただきたい。これも1つの方法ですから、ぜひともお願いをしたいと思っております。よろしくどうぞ。

○議長（中山五男） 國井副市長。

○副市長（國井 豊） ベッドタウン化ということでございますが、現在、御承知のように本市内におきましては、高峰パークタウンとか南那須地域内にも民間が開発した宅地等がございまして、これらもまだ若干空きがあるのかなというふうに思っております。

ですから、そういうところをまず優先して、誘導は図っていったらどうかというふうに思っておりますし、また、今回、市営住宅等の整備計画検討委員会が立ち上がることになっております。これは市営住宅の考え方につきましては、もちろん低所得者層対策も必要でございますが、若者対策も当然あわせて、この市営住宅の中で検討していくことがいいのではないかとこのように思っています。

ですから、県外でもかなり自治体で建設しました住宅で、結構優遇策を設けて若い人を呼び込んでいるという例もありますので、そういうものも研究しながら、ベッドタウン化になるかどうかわかりませんが、本市に定住をしていただくべくあわせて検討していければというふうに思っています。

○議長（中山五男） 清水危機管理室長。

○危機管理室長（清水敏夫） 自衛官の募集事務に関しましては、国から募集事務の委託費ということで1万5,000円ほどいただいております。これにつきましては、自衛隊からの要請に基づきまして、募集の案内をお知らせ版に掲載させていただく。また、駅近くに募集の看板をつけたいとか、いろいろ自衛隊のほうから相談が来ます。その相談に乗ってあげて仲介をしてあげる。私どものほうではそういうスタンスだけでやっている状況であります。

ですので、その内容等については詳細には把握しておりません。そのような状況でございます、市としてのスタンスは。

○議長（中山五男） 高橋商工観光課長。

○商工観光課長（高橋 博） ただいまの滝田議員の提言を踏まえまして、検討委員会はございませんが、担当課とまた地元自治会と早急に相談して検討してまいりたいと思っております。ということで御理解願いたいと思います。

○議長（中山五男） 14番滝田志孝議員。

○14番（滝田志孝） 最初の定住促進ですね。これはやはり今、副市長が言われるように民間企業もあるわけですから、やはり役所のいいところ、民間企業のアイデアとかそういういいところ、やはり話をして共存共栄で、そして人が来ることによって相乗効果が一緒に出る。

そういう可能性もあるわけですから、よく地元のそういう関係の仕事をやっている方、そして役所とよく話をし、どうしたらここに人を呼べるか。言い方がいいか悪いかわかりませんが、若い人を呼び込めるか。そして、少しでも所得税、固定資産税をいただけるか。制度利用いただけるか、そういうことをいろいろと考えて1つの考え方としては、商売ではないんですが、やはり赤字ではだんだん3割行政が3割切っちゃうとなかなかまた難しいわけですから、ぜひとも頑張っていたきたいと思えますし、そのような考え方ができるのかどうかもお伺いをするものであります。

○議長（中山五男） 國井副市長。

○副市長（國井 豊） 滝田議員の御質問であります。また、いい提案だというふうに思っておりますし、1つ先ほど高峰パークタウンの話をしましたけれども、あのパークタウン、渋井議員も住んでいらっしゃるのではおわかりかと思えますが、非常に素晴らしい団地だなというふうに思っております。私も当時、少し担当した経緯がありますので、自然を残す。塀なども生け垣にするとか、あるいは今はコンビニみたいなものがあつたほうがいいのかもかもしれませんけれども、そういうものは設けないというようなことで、閑静な住宅というようなことを目指したのがありますし、周辺にも文教施設もありますし、素晴らしいところだと思えますね。

ですから、そういうところに民間といいますかそういう方と、市ができれば何か支援していきながら、ぜひこちらのほうに定住していただけるように一緒に進めていければというふうに思っております。

○議長（中山五男） 15番高田悦男議員。

○15番（高田悦男） 長らくお待たせいたしました。私の用意した質問は、同僚議員がほぼ質問をしております。重複しない範囲で質問をしたいと思えますので、その辺の回答をお願いいたします。

5点ほどになります。まず初めに、職員給与関係ですが、国家公務員の給与引き下げに関して我が市ではどうかというような質問であったと思うんですが、市長の答弁は、引き下げは絶対にしないと、強い回答がありました。安心をしているところでございます。

合併当時から2割の職員が削減されました。2割削減されるということは、仕事量は2割ふえたということです。これで給料を下げられたらたまりません。労働者は自分の生活の向上と福祉の向上のために労働、その対価として賃金をもらうわけでございます。

固いことを言っても何ですから、国のほうは交付税あるいは補助金でペナルティーを多分求めてくるものかなと考えています。そういう中では、県内の自治体、統一した歩調をとっていくべきだと思うんですが、そのことについて市長にお尋ねをいたします。

次に、地デジ関係です。補助金なんですが、平成24年度にたしか4組合が工事を完了しつ

つあるという状況だと思います。これで市の負担は直接的にあったのかどうか。

3番目に浄化槽設置事業費単独処理浄化槽撤去費補助、これは多分下水道あるいは合併浄化槽に切りかえるときに今までの単独処理浄化槽を掘り起こすと。そのための補助金かなとは思いますが、どの程度の戸数を考えているのか、お尋ねをいたします。

続いて、商工振興対策事業費、先ほどから話題になっている商品券の発行事業でございます。私はもう商品券の発行事業そのものを考える時期ではないかなと思っています。その効果を否定するわけではありませんが、結局印刷してお金をそれにかえる。単純な作業なんですね。そこに金は流れても汗を流すことがないと思うんですよ。

ですから、商品券を使うのには、汗を流した、例えば12月議会で私が取り上げました火力発電所に持ち込む木材の代償として商品券の発行はどうか。あるいは河川愛護会がありますよね、これの草刈り、代償として今お金が支払われております。これらに対しては私は商品券でいいのではないかなと考えています。生活給に及ばない範囲で利用すべきではないかなと考えます。

最後に、林業振興費であります。市単独林道整備事業費、これの場所ですね。最後の元気な森づくり推進事業については、やはり通学路に接する山林の刈り払いが主な実績かなと思っています。ただ、今は通学路あるいは生活道路に面する耕作放棄地、あとは雑種地ですね、先ほど評価の上があった。しかし、いくら評価が上がっても草は生え放題ですから、これらの対策にその森づくりの推進事業費が利用できないのかどうか。

以上。

○議長（中山五男） 大谷市長。

○市長（大谷範雄） 給与関係につきまして御質問がございました。那須烏山市の給与体系はもう御存じのように、人事院勧告に基づきましてずっと準じてやってまいりました。その結果、先ほど申し上げましたように、合併してから金額ベースにしても20%近い削減を余儀なくされたわけでございます。さらに、この人員も計画的に適正化計画という名のもとに削減をまいりました。これも20%ということございまして、そういったところはおおむね国があるいは指導するようなことでやってきたんですね。そういう中であって、今回は人事院勧告を無視するような形で、総務省みずからがそういった国に合わせろというような強行手段をとってきたということでございます。

したがって、それについては当然、地方自治法を無視するようなやり方でございますから、当然これは反対であります。これは市長会も挙げてそういったところを反対ということで今流れておりますから、引き続き市長会を通じてそれについては反対をしていきたいと思っています。

○議長（中山五男） 坂本総合政策課長。

○総合政策課長（坂本正一） それでは、地デジの状況につきまして御報告いたします。

平成24年度の実施状況でございます。ほぼ事業費が確定しておりますので、4地区が対象ということでございますけれども、まず、補助の制度の関係ですが、各地区ごとに全体の事業費のうち3分の2が国の補助金が出ます。それから、NHKのほうから1世帯当たり10万円限度として助成金が出ます。それを差し引いた残りが地元負担金ということでございますが、この地元負担金のうち各世帯3万5,000円を超える部分につきまして、市のほうから補助金を出すということになってございます。今回、4地区合計で189万4,000円の市からの補助金を支出してございます。

○議長（中山五男） 樋山上下水道課長。

○上下水道課長（樋山洋平） 合併処理浄化槽についての御質問をいただきました。これは今年度から新規事業として補助事業を始めるものでございまして、住宅等から排出される生活排水を公共水域の水質汚濁を防止するというような目的で、今まで単独浄化槽を利用していた方が合併処理浄化槽にかえるような場合、浄化槽を撤去しなければならない。そういう方に対して今年度から補助するというふうな考え方でございます。

撤去の場合、普通単独浄化槽から合併浄化槽に変える場合は、単独浄化槽をくみ取りしまして砂で埋めてしまうというようなやり方もやっておりますが、敷地が狭かったりすると、掘り上げて掘り上げた処分は産業廃棄物として処理しなければならない。それにはそれなりの費用がかかるということで、その部分を補助するというので、限度額10万円という形で補助をするということでございます。

なお、下水道の地域につきましては、単独浄化槽以外にも合併処理浄化槽を撤去する場合も補助対象にしたいと考えております。

○議長（中山五男） 高橋商工観光課長。

○商工観光課長（高橋 博） それでは、私のほうから商品券関連、ちょっと御説明したいと思いますが、御承知のとおり、商品券発行につきましては、地域の経済対策とあと商工会員の事業所の活性化を図る目的で、これらは発行されているものと思っております。高田議員がおっしゃる河川愛護とこの商品券発行を考えますと、趣旨がちょっと違うのかなと考えております。

以上でございます。

○議長（中山五男） 堀江農政課長。

○農政課長（堀江豊水） 予算概要書47ページの市単独林道整備事業でございますが、これは1路線でございます。林道藤田南大和久線の路肩復旧工事と設計委託で350万円です。

さらに元気な森づくり関係につきまして、御存じのように将来まで守りたい、育てたい森関係の周辺の整備、それから先ほどもお話ししましたが、イノシシ関係に対する里山の整備、御指摘の遊休農地関係についても年間のスケジュール、年次計画の中に取り入れまして、何とかそのエリアに加えてやるというような方向で検討はしてまいりたいと思います。

以上です。

○議長（中山五男） 15番高田悦男議員。

○15番（高田悦男） まず、1番目の職員の給与についてはぜひ他市町と連携を組んで対応していただきたいと思います。

地デジにつきましては、実は私も田野倉第2組合の組合長ということで、平成25年度の事業でやる予定なんですけど、私は組合長になる前提として、まず、組合員の負担額を7,000円以内に抑えようという方向でやってまいりました。

光ケーブルを利用して、あとあとのメンテナンス及び電気料を含めて抑えるという意味合いでそういう料金体系でいこうと。年間5,000円ぐらいに抑えたいと考えて、今、進めています。これは特に回答は結構です。

3番目の浄化槽については了解であります。

4番目の商品券なんですけど、私は先ほど言いましたように平均8万3,000円でした。ということは約1,000人の方が両替するわけですね。逆に言えばたった1,000人だけがそれを利用して、ガソリンはやはり該当になりますよね。そうすると、ちょっとさっき話題になったんですが、150円のガソリンが135円が入るから全部10万円商品券にしてガソリン代に充てるんだということもできるわけなんですよ。

ですから、もっと幅広い利用方法を考えてもいいのではないかなと。これは市長、思うところがあったら答弁をお願いいたします。

林業振興費についてはぜひその耕作放棄地ですね。これらの周辺の草刈りあるいは刈り払いができるように、ぜひ取り組んでいただきたいと思います。

○議長（中山五男） 大谷市長。

○市長（大谷範雄） 今まで3回実施をしましてまいりましたわくわく商品券についてのお尋ね、感想ということでございますが、いろいろと今まで3回やってきて、反省材料も課題もあるということは私も承知をいたしております。今回のこの商品券発売につきましても、商工会からの要望があったことも事実でございます。やはり商工会の今、市街地の商店街を初め本当に疲弊しているんですね。喫緊の課題。なんで来るかというような本当に喫緊の課題になっております。そのような一助にもなればというようなところから、1億1,000万が動くわけでございますので、そういった意味ではその商工会の要望も理解をできるというようなところから

踏み切ったわけですが、その趣旨をさらに拡大をするというようなことは、市のほうの担当部局と商工会のほうでよく検討されたい。議員の意見を踏まえて、そういったところまで拡大できないか。そういったところは検討すべきだろうと思います。

○議長（中山五男） 15番高田悦男議員。

○15番（高田悦男） 私は別に商品券の取り組みを否定するわけじゃないんですよ。ただ単に、お金と商品券を交換するだけではもったいないんじゃないですか。そういうことを言いたいんです。汗を流して、それを商品券としていただいて、それを地元で使う。私はそういう方法が一番理にかなっているのではないかなという思いから質問したわけですので、その辺の意見も、もし機会があればそこで反映していただければと思います。

以上で終わります。

○議長（中山五男） それでは続けてやります。

17番平塚英教議員。

○17番（平塚英教） 平成25年度的那須烏山市の予算の概要で何点か質問したいと思います。

1 予算の特徴というところに、主要事業の特徴ということで（1）知恵と協働のまちづくりプラン11というのがあります。このような委員会を立ち上げて、いろいろな構想や検討を練るというようなことでありますけれども、例えば①中央公園整備検討委員会というのがありますね。これは恐らく旧町内の中央公園の整備だと思われるんですけども、道路だけを整備するのか。例えばここに市民ホールを建てるような構想も含めて検討するのか。非常にこれはアバウトで、もしそういう要求が出たらそういうことをやるということで、この検討委員会で進められますと、恐らくこの中にいる人たちが中央公園の整備あるいは市民ホールについては私たちが最高の意思決定機関だと、このような誤解を受けるようなことになってしまうのではないでしょうか。

そういう意味で、やはり中央公園内の道路をまず優先して整備をするんだということを明確にする必要があるのかなと私は思うんですよ。そこに何をつくるかというのは、また別な委員会を立ち上げてやるべきじゃないかなと思います。

それで道路について申し上げますと、いろいろと調査をされていると思うんですが、私は前から提案しておりますように、北側は今度できたあすなろ作業所の信号機からずっと入っていて、健康管理センターを右折して、ずーっと行って、それから鍛冶町の十字路、知っていますか、そこに抜けるように整備するのが一番ふさわしいと。鍛冶町の部分については、いろいろ地権者ありますけれども、それについては信号機に抜けられるように、あの辺のいろいろな信頼関係の中で十分方策ができるというふうに私は聞いております。

そういう意味で、充て職で何とか委員会なんかつくって、私、久保居議員と同じ意見なんだけれども、勝手な結論を出してそれを行政が進めるということじゃなくて、やはりそこに住んでいる方、その意思を大事にして、信頼関係を大事にして、そして、私が言うように信号機から信号機まで抜けるような、そういう方法をとっていただきたいなと思うんですけれども、この辺の考え方を承りたいと思います。

次に、長者ヶ平ですね。これについては基本構想、これも同じなんですよ。ここにどんな建物を建てるのか私はわかりませんが、建物を建てるについては国のほうから何か補助金がいただけるのかなとは思いますが、一旦建てたものがずっと使われないでいると、さっきのビジターセンターと同じような憂き目に遭うと。こういうふうになってしまうので、その辺、行政のほうとしてはある程度看板をつけたり、あそこの周辺が昔こういうふうだったと、中身がわかるとか、ある程度あそこで発掘されたものをそこに展示できるようなものはいいかもしれませんが、そこに付属して道の駅みたいなものをつくって、利用がないというようなことにならないように、これも行政のほうで指導力を持って方向づけをして、そしてそれについて地元の方々の意見を聞きながら進めるべきかなと、このように考えます。

それと、歴史資料館についても、2つのものを1つにするというのは行政の考えなんですか。それとも2つは2つのままつくるといようなものも含めて構想委員会の中で考えてください。これは武道館のほうもそうなんですけどね、武道館ももともと2つあったんですから、それを1つにするということなのか。旧両町に2つつくるといことも含めて検討委員会の中で検討いただく。3つつくるかもしれません。そういうようなことでなくて、やはりリーダーシップを持って行政のほうで予算も限られているわけですから、進めていただきたいなと。

デマンドタクシー、昨年の10月から稼働していますけども、福祉バスも運行していますよね。あれはこぶしの湯に高齢者の方々が行けるあるいは温泉に行けるということで始まったと思うんですが、その辺、片方は無償でお年寄りを乗せて走る。片方は本当は1人当たりすごい金額がかかっているんだけど、有償で利用する。これは無償のほうに乗るに決まっているでしょう、乗れる人はね。

だから、この辺も含めて、やはり市長とか行政のほうでリーダーシップを持って、もうデマンドタクシーに集約するんだから福祉バスはなくてもいいんだとか、そういう行政のリーダーシップが必要なんじゃないかなと思います。

次、文武両道の教育推進事業というのが先ほどありましたが、私、勘違いしてしまっていて、これは各中学校で武道が選択で必修科目になったということなので、それを進めるための事業推進なのかなと思ったら、そうでなくて、ABC/R運動と同じように、文武両道ということを進めながら、日本一の教育を進めるようなことを進めていくんだというようなことだとい

とはわかりました。

それで、学校での武道並びにダンスですね、これが必修科目になっているんですよ。これが具体的にはどのようにやられているのか。例えば指導者がダンスなんかの場合には少ないわけですから、なかなか大変だというふうに聞いておりますが、その辺ちょっとわかれば御説明をいただきたいと思います。

あと、これは私どもの所管になってしまうのか、ほかの委員会なのかよくわかりませんが、市民憲章、市民の歌、これはどのような段取りで恐らく来年の10月ごろが合併8周年になるんですかね。そういうところでお披露目するのかなと思うんですけども、そういうものをどういうふうを選定して、どういうふうにつくっていくのか。その辺の中身についてお示しをいただきたい。これは私、一般質問でやっておりますのでお願いしたいなと思います。

あと介護保険の関係ですけども、きのう、認知症問題が出ましたけども、私の言っているのが正確かどうかわかりませんが、大田原市やさくら市のほうでは、これは言葉が悪いですけど、徘徊する認知症の方にどこへ行ってしまうかわかりませんので、GPS付きのネックレスとかブレスレットみたいなものをつけて、そして、そういう方々がいなくなってしまうような対策がやられているというふうに聞いていますけど、本市としてはそういう対策がとられるのかどうか。これについて御説明いただきたい。

あと滝田議員と全く同じ考えで、定住促進、これは若い方々が役場の職員でさえほかの町へ行っちゃうんだから、若い職員がここのまちに仕事がなければこれはなかなか定住するのは難しいですよ。それで、やはり定住促進を図るためには、新しいうちをつくったら補助金を出すよなんていうレベルじゃなかなか定住しないですよ。

問題は、もちろんそれも大事ですよ、それと、その中古住宅もあっせんして住んでくださいというのは大事ですけども、その前に雇用拡大ですよ。大谷市長は、ことしの下野新聞の年頭の所感で企業誘致や人口増を図ると大きくうたっているんですよ。だから、やはりこの企業誘致を単に来ていただければ、こんなにいろいろな特典がありますよというように待っているやり方じゃなくて、さっき副市長も言いましたけど、どんどん来ていただくという必要があるのかなと思います。

国のほうでもこれは本当に格好付けですけども、60万人の雇用創出だということで緊急経済対策を打ち出しているわけなんですけれども、予算としては1兆3千100億円ですね。しかし、その52%が国債依存だと。年金の財源も含めて7兆8,000億円が国債発行だということで、非常に中身はつらい問題がありますけれども。

いずれにしてもその中身の中で、企業の技術開発や工場新設などを後押しする成長による富の創出に3兆1,000億円。こういうものを打ち出しておりましたり、あるいは女性や若者

の企業を後押しする施策を実施して、中小企業の活力を引き出すほか、さっき高田議員が言いましたけど、各地で産出する木材を使った住宅を購入した場合にポイントを付与して、地元産の農産物と交換できる木材利用ポイント創設などなどに410億円。こういうふうなことが出ておりますので、本当に市長、目をつぶっている場合じゃありませんよ。本当に企業誘致、これは本当に命がけで頑張っていたいただきたいと思うんですが、それを基本にしながら定住促進を図るということで、平成25年度頑張っていたいただきたいと思うんですが、回答をお願いしたいと思います。

あとは、語句のわからないものがありますのでそれを簡単に説明してください。予算書の24ページ、共同住宅型光回線集約装置電気料1万3,000円とか、25ページ、余剰電力売り払い料5万7,000円、あと52ページ、住宅建築物安全ストック形成事業費110万円、この内容を教えてください。

それとイノシン捕獲ですね。これはこの間の補正でもやりましたが、今度224万5,000円つきました。平成25年度で新たな内容についてもしあれば御説明いただきたいと思っています。

以上です。

○議長（中山五男） 大谷市長。

○市長（大谷範雄） それでは、私のほうから主要事業の特徴についてと企業誘致、定住促進、これらの考え方についてお答えをいたします。

まず、知恵と協働によるまちづくりプラン11でございますけれども、これは今までの震災2カ年によりまして大変まちづくりプランが停滞をいたしておりました。したがって、今度の平成25年度は、後期計画の初年度ということもございますから、いわばことしの平成25年度の予算は、再び前を向いて歩み始める計画実行の予算だと位置づけております。

そのようなところから、やはりこういった前向きな重要な政策をするには、各11のプランは各課横断的なチームをつくって対応する必要があります。このようなところから11の委員会を設置をしたという経緯がございます。

したがって、具体的なこの委員会の設置といったことについては、今、各課で練っております、そういう人選も進めているところでございますが、いずれにいたしましても、議員御指摘のように行政主導で進むことは間違いないと思っています。

また、雇用問題と企業誘致については、これはもう合併後からずっと言い続けていたことでございますが、どうも今の企業誘致にしても定住促進にいたしましても、まちのスタンスということになっておりますので、そのようなところを改善をして改革をいたしまして、トップセールス、全庁体制でトップセールス、そういったことを過日の3月1日の朝礼でも全職員に私

のほうからお話をさせていただきました。

そういうことで、フットワークをよくして、まず、昨年の12月に全国でも類を見ないといえますか、かなりの高レベルの優遇策をつくったわけであります。企業誘致にいたしましても、住まいづくり条例にいたしましても、大変有利な優遇策をつくっていると自負をいたしておりますので、ただ、それを待っていたのではやはり実績が上がりませんので、こちらは攻めていくということでトップセールスを含めて全職員でそういった対応をしていく。こういったスタンスをとっていきたい。こういうところからあえてこの9つの主要事業の特徴に位置づけたということでございますので、ひとつ御理解いただきたいと思います。

○議長（中山五男） 池澤教育長。

○教育長（池澤 進） 体育の授業の中に武道教育を取り入れるという御質問でございます。平成24年度から、中学校に年間10時間から15時間の間にこれを設けなさいということで、学習指導要領の中に落してございます。

本市では、過日申し上げましたとおり、各中学校、剣道を選択いたしました。これから平塚議員がおっしゃるように、男子も女子もダンスを選択したり、あるいは柔道を選択したり、相撲を選択したり、広い領域で選択できるような環境が整えられるといいなど。（「ダンスはやっていないんですか」の声あり）ダンスは今、中学校の体育でできるのは烏山中学校で一人なんですね。これから文部科学省、我々も育てていく必要があるかと思えます。しばらく時間を頂戴できればと思います。

以上でございます。

○議長（中山五男） 福田都市建設課長。

○都市建設課長（福田光宏） 私のほうから平塚議員の質問にお答えしたいと思います。

24ページの共同住宅型光回線集約装置電気料の件について御説明したいと思います。これは野上市営住宅の野上台団地にNTTが光回線をつけておりますので、その使用料という形でお金をもらっております。平成23年度は1万3,104円いただいております。

2点目お答えしたいと思います。52ページの住宅建築物安全ストック形成事業110万円について御説明したいと思います。簡単に言うと、民間住宅の耐震改修事業補助金として1戸を考えております。この金額が60万円でございます。

それと民間の家の耐震診断を5戸分、10万円。それと補強計画5戸分、40万円。計110万円を予定しております。今までの実績ということを御説明しますと、平成23年度は民間の改修補助1戸ありました。耐震補強等の診断等は2戸ありました。

以上でございます。

○議長（中山五男） ここであらかじめ本日の会議時間を延長いたします。よろしくお願

します。

福田都市建設課長。

○都市建設課長（福田光宏） 大変失礼しました。一番最初の中央公園の道路でございます。これは現在、測量調査中でございます。平塚議員のすばらしい提言ありがとうございます。ただ、私はこの中央公園に2車線の道路で歩道をつけた道路を、必ず1カ所でも抜きたいという気持ちを持っております。そうしないと、中央公園避難所、利用者、いろいろな面で大変困りますので、最大限努力してやりたいと思っています。2方向から通れるというのは災害に大変いいと思いますが、最低でも1カ所から入れるようにしたいと思います。

以上でございます。

○議長（中山五男） 川堀生涯学習課長。

○生涯学習課長（川堀文玉） 平塚議員から長者ヶ平官衙遺跡基本構想、それから歴史資料館基本構想、体育施設基本構想等のかかわり方というようなことで御質問いただきました。私個人といたしましても、例えば長者ヶ平につきましては大きい建物をつくるというようなことは考えてございません。ただ、駐車場、簡単な休憩施設等、それから施設の表示関係についても大きい建物で表示するのではなくて、そういうことで考えてございます。

また、歴史資料館につきましては、前の質問の中でもしましたが、2館がそれぞれ廃止あるいはかなり疲弊しているというようなことで、また、合併をして8年近くが経過いたします。2つを考えると1つにしたいということで、計画をこれから検討してまいりたいと思っております。

体育施設等につきましても、例えば体育館等も廃校になった後の学校等の体育館で数的には十分充足しております。武道館につきましても、今、2つありますが、南那須武道館については震災で使えないというようなことでございます。一応考えとしては、やはりこちらについても、合併しておりますので2つは必要ないと考えております。これも1つで計画を考えたいと思っております。

また、予算書関係の25ページの余剰電力売り払い料、こちらは南那須図書館のソーラー発電の売り払い電気料ということで御理解いただきたいと思えます。

以上です。

○議長（中山五男） 清水危機管理室長。

○危機管理室長（清水敏夫） 福祉バスとデマンド交通の関係の競合等の件につきましては、デマンド交通については昨年10月1日から試験運行ということでやっております。この検証ですね、地域公共交通会議等で検証して、福祉バス等についてはどうするかということは今後結論を出していきたいと思えます。

以上です。

○議長（中山五男） 栗野総務課長。

○総務課長（栗野育夫） 市民憲章の制定及び市の歌の制定につきましては、平塚議員御指摘のとおり、合併10周年にあたり制定してはという意見もあったのは事実でございます。しかし、合併して8年になりますが、市の歌もない、市の憲章もないと、ちょっと寂しいのではないかという声がありまして、前倒して本年度、市の歌、市民憲章を制定するものでございます。

予算的には、市民憲章につきましては何条かの条立ての文言になると思いますので、それらについては予算計上しておりません。市の歌につきましては、当初予算で200万円、どういう形で市の歌を制定するか。いろいろな方法があるかと思うんですけども、募集方式とかある程度著名な方に作曲、作詩を依頼するとかあるんですけども、今後それらについては検討してまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（中山五男） 網野健康福祉課長。

○健康福祉課長（網野 榮） 先ほどの質問の中で、認知症等に伴う徘徊高齢者の見守りをどうするんだということですが、結論から言いますと、GPSを利用したペンダント等をつけるものについては採用しておりません。今後、いろいろな方式がありますので、今後近隣町、ほかの先進事例などを参考にして今後研究をさせていただきたいと思っております。

以上です。

○議長（中山五男） 堀江農政課長。

○農政課長（堀江豊水） イノシシの新たな財源というお話だったと思いますが、県のほうで補正予算でついていることはついています。事業名もまだ確定しておりませんが、1頭当たり5,000円になるのか7,000円になるのかまだそれわかりませんが、国から県の基金扱いで、それから実績に合わせて市は要求して、そして猟友会の皆さんに1頭幾らというような上乘せタイプで執行したいと考えています。

○議長（中山五男） 17番平塚英教議員。

○17番（平塚英教） 2回目の質問をしたいのはやまやまでいっぱいあるんですが、もう5時になってしまいますので、私の意見だけ申し上げます。知恵と協働のまちづくりというのはいいんですが、やはり本当に適材適所の方を集めて、市民の心を大事にして、そして本当に大事な必要なものをつくっていくという方向を見出させていただきたいと思っております。

市長、定住促進、そして企業誘致、雇用拡大、これについては市長を先頭にして全力を挙げてこれを進めていただきたいなということを訴えまして質問を終わります。

○議長（中山五男） 18番樋山隆四郎議員。

○18番（樋山隆四郎） さあ、いよいよもって最後になりましたが、もうちょっとしばらく我慢してください。

私はもう細かいことは皆さんがもう全部質問をしたので、中長期の計画、これはもう本当に毎年毎年私は予算のときになるとこれを問題にするわけでありまして。しかし、これ、決して予算は減らないんだよ。当初は112億円ぐらいしていて、決算になると140億円ぐらいになる。これはなぜかという、今、合併特例債であと22億円ぐらい残っております。ですから、これは多少は投資的経費がふえるかもしれないですが、それに続いて消費的経費もふえているんですよ。減らないんですよ。

一番困るのは、今ガソリンがあるところはいいんですよ、合併特例債で。これは上昇気流に乗っていくから構わないんだけど、標準財政規模、担当課は総合政策課だったかな、85億円ぐらいあるわけです。これの3割5分しか借りられないんだ。借金ができないんだ。そうすると、大体280億円ぐらい。その280億円ぐらいに近いのを今既に一般会計でも130億円ぐらいあるわけです。特別会計を入れるともう210億円ぐらいあるわけですよ。

そうすると、どこで問題が出てくるかという、一番困るのが平成27年以降なんですよ。これからどんどん減らさなくちゃならない。そうすると、それは5年間で減らす。そうすると、合併の特例債でうんと水増ししてくれたのが、減って5億円なんですよ。それを今度は5億円どころじゃない。税込だって今は30億円ぐらいでいこう。そういうふうな歳入の計算をしています、大体今、地方から地方交付税で来ているのと、その他の財源とかいろいろ入ると百何億円ですよ。自主財源は44億円ぐらいしかないんですよ。みんなパーセンテージで言うからわからないんですよ。

実際、幾ら税金があるんだと言ったら40億円ぐらいしかない。それで国から、県から、その他のいろいろなところから入ってきているのが100億円近いんですよ。これ、どう考えたっておかしい。これをいかにして5年間とか10年間のうちにソフトランディングしなくちゃならないんですよ。そのときに大体財政規模は80億円から90億円なんです。市長は今、100億円と言っているんですよ。それだってソフトランディングするまでに大変だ。

それと、そのときに100億円の予算を組むときに、結局市債を発行しなくちゃできない、予算が組めない。こういうふうになったときには借金がふえていくわけですよ。100億円の予算を組んでいけば組んでいくほど。そうすると、いつの間にか280億円を超えると管理団体になってしまう。

先の話だからこれは大したことないと思ったら、そんなわけにいかないんですよ。今から高度1万メートルから8,000メートルまで落しておかなくちゃ。もうガソリンが切れちゃう

んだから、あと少しで。そして自然の力でソフトランディングを図ろうとするけれども、そのときには今からキャップ制にして枠をはめておけと。それで、その中で予算を組め。そして、急激な痛みじゃなくて徐々に痛みを分け合っていけと。この予算を組まなくちゃだめだと。

だから、私はいつもこの予算の編成時期にはこれを言っているんだから、総合政策課長か誰か担当課の人はどう考えているのか。それと、22億円はいつなくなるのか。その辺のところも答えをいただきたい。その辺の質問ですから、わかる範囲内で教えてください。

○議長（中山五男） 坂本総合政策課長。

○総合政策課長（坂本正一） ただいままず、標準財政規模のお話でしたが、平成24年度約82億円でございます。平成25年度につきましても約82億円程度の見通しになるかと思っております。

合併特例債につきましては、このたび策定しております中長期財政計画案では、全額活用するとして想定をして収支の見込みを立てておりますが、平成29年度で借入れが全額終了するというような見通しでございます。

○議長（中山五男） 18番樋山隆四郎議員。

○18番（樋山隆四郎） いい答弁けどちょっと内容がうまくないんだ。これはキャップ制をしいて需要額と標準額は別だよ。大体それはどのぐらいまで見てくれるかにしてたって、恐らく90億円ぐらいだもの。そのぐらいの規模でやっていかなければ。それと今度は5億円できないからね、減るのは。なぜかという、総務省もやっているのは、面積と人口だと。だけど、その中身はわからない。もっと減らされる。それはなぜかという、その中に学校だとか人口だとか道路だとか生徒の数だとか、いろいろなものを入れて合算して交付税を出しているわけでありまして。それがどんどんどんどん減額する。そうなってくると、5億円で収まらないと思うよ。

今44億円ぐらい来ている。だから、そういうことを考えたときに、じゃあ、長期的にあるいは中期的にどういうふうに構成をしていくのか。それをやらないと、22億円使っちゃってそのほか今度は交付税が減って、交付税が減るとことは県の支出金とか、これも減ってくるからね。そういうものを考えたときに、この小さい、もう町ですよ。そのころには2万8,000人どころじゃない、2万6,000人ぐらいになっている。

こういう状況の中で、今までと同じようなサービスをできるのか。その辺を心配しているから聞いているんだけど、その辺の答えがないので準備できていなければいいよ。

○議長（中山五男） 大谷市長。

○市長（大谷範雄） 今、議員御指摘の財政の問題については、十分承知をいたしておりますし、本当に大きな課題だというふうに私も捉えておまして、そのためにこれから平成

25年度から10カ年の中長期財政計画を、過日、全員協議会でお示しをしたということになっております。

それによりますと、10年後の財政をどうするかというところにひとつ焦点を当ててみますと、やはり言われるように85億円、90億円、これは理想だと思いますが、なかなかそこまでは難しいというのが実態でございました。私は100億円、一般会計で100億円程度にやはり抑えるよう指示はいたしておりましたが、それでも100億円はなかなか切れないという報告であったのがこの中長期財政計画なんです。お手元にあるとおりでございます。

そういう中で、100億円と仮に仮定した場合に、100億円の収入をどうするかということですね。そういうことですね。そうやってきますと、当然今、合併の有効期限であります10年間の優遇措置が切れます。今5億円いただいていますから。これが切れますね、当然。段階的に切れる。5年後で切れるから、これから平成27年度で切れる、プラス5年で大体ゼロになってきますから、当然合併してから15年後には5億円がなくなるというふうに試算すべきなんです。これは交付税でございますから、これはやむを得ない。そういった措置になりますね。それをしないようにするのが要望なんですけど、それは置いておいて。

もう一つこの自主財源はどうだということになれば、何とか30億円程度は確保できそうだということですね。これはやはりこの10年間でこれはこの前お示ししたとおりでございます。そういうことになると、あとの国県補助金というのは、これはやはり目減りするだろうと思えます。国のあれでも1,000兆円と言われるようなものを抱えていれば、当然減らすべきところは大いに減らしてきます。

そうやってくると、財源をどこに求めるかということになりますから、やはりもうそうやってくると、先ほど企業誘致、これは無理であってもやはりやらなきゃならないというのは御理解いただけると思うんですね。そういうことで、それはそれでやったにしても、これが30億円が1割も2割も伸びるかなということはなかなか難しいなと私は思います。

そういうようなあらゆる手立てで再生可能エネルギー、メガソーラーなんかを初めとして、でき得る企業誘致はやはりやっていく。そういうふうなところで何とか30億円は確保できるかなと思っていますが、じゃあ、その100億円をさらに交付税も減る。どこに求めるかといいますと、やはりこれは民活しかないんですね。これは民間活力で、いわゆるPFI、PPPと言われるような民間活力をもって財源をそれにかえると。やはり年賦払いということですよ、こういった投資的経費は。そういったことも活用しなければならないというシミュレーションになっているんです、この中長期財政計画は。

ですから、先ほどの主要事業の中で、知恵と協働のプランの11も、中身はPFIも活用したというのが後期計画に入っているわけでございます。そのPFI、非常に時間と労力がかか

るんです、これは。お金もかかる。やはりオーナーというか、SPCといういわゆる管理会社をまず決めなきゃなりません。それまでには、やはりしっかりしたコンサルタント会社に委託をしてそういった計画をつくる。それで大体1年かかる。事業着手までには3年というふうに言われているんですが、やはりそれも国の有利な予算も入れながらできる事業でございますから、これは極めて有利な事業です。それはやはり20年とか25年の年賦払いですから、仮に1億円ずつ返すにしても20億円の事業ができるということになるんですね。そういうような民活の活力しか私はないと思っています、その財源は。

そういうところと、歳出の問題は今言われたように、投資的経費と消費的経費の中でもいろいろ見てみると、性質別から見ると実は人件費と投資的経費しかないですね、うちの性質から見ると。投資的経費はやはりどうしてもこれは合併特例債がなくなるときはなくなりますから、このシミュレーションでは、恐らく平成25年度がピークなんです。それからずっとで、10年後は99億円になってまいります。ですから、そういったシミュレーションになっていきますから、平成25年度がピークでございます。それがずっと減っていく。

そういったところになるんですが、一方、歳出の場合はさっき言った職員の人件費を初めとする適正計画、これしかないんですね。あと、扶助費、保険、医療、介護、これは全部毎年毎年1割伸びていくんですから、魔法みたいなことは絶対できませんから、どこかで減らさなければならぬということなので、そういったところをやはり、適正人員の配置ということでは大変苦勞します。しかし、それはやらざるを得ないので、それが財政計画の10カ年に裏打ちされているというふうに御理解いただきたいと思います。

ちょっと説明にならないかもしれませんが以上です。

○議長（中山五男） 18番樋山隆四郎議員。

○18番（樋山隆四郎） 市長がそこまで言ってくれたんだ。私も一言言わせてください。民活というけれども、今度新しくどういうふうな計画かわかりませんが、烏山に文化会館をつくる、どこに文化会館をつくるかわかりませんが、民活でそれを受けるほどの人がいませんよ。宇都宮あたりに大企業があつて、それを受けましょと、20年年賦でいいですよと。そういうふうな人が烏山にいればいいですが、出てくるかもしれませんからそれは希望として結構ですが、最終的には私は、これはもう大変な努力をしなくちゃならない。それでも市債を発行しなければ、何年かは、結局予算がとれないという時代が来る。そのときに市債が280億円を超えたときには、もう既に夕張ということになると。

だから、その辺を私はいつも心配しているんです。人件費を削減したって、投資的経費は35年と、今14億円あるんですからね、建設。2億6,000万円ぐらいに回しちゃっている。財政調整基金は今14億円ぐらいあるんですよ、20億円ちかく。それも使い切っちゃっ

て果たしてこの維持ができるか。この辺はやはり財政当局、よく考えてもらって、ソフトランディングを果たしてもらわないと、犠牲者が出る。

だから、私はいつも予算のときにはこれを毎回言うわけです。来年も言いますから。ですから、よく検討しておいてください。調整方よろしくお願いします。

これで質問を終わります。

○議長（中山五男） 以上で、全議員からの質問が終了いたしましたので、これで質疑を打ち切ることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（中山五男） 異議なしと認めます。

よって、これで質疑を終結いたします。

お諮りいたします。ただいま上程中の議案第1号から議案第9号までの平成25年度那須烏山市一般会計予算・特別会計予算・水道事業会計予算については、各常任委員会に付託したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（中山五男） 異議なしと認めます。

よって、議案第1号から議案第9号までの9議案を、それぞれ所管の常任委員会に付託することに決定いたしました。

○議長（中山五男） 以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

次の本会議は3月15日午前10時から開きます。

本日はこれで散会します。御苦労さまでした。

〔午後 5時14分散会〕